

令和 2 年度東静岡駅南口歩行者用通路概略検討業務委託

業務報告書
(概要版)

■ 業務概要
■ 業務報告書の概要
第 1 章 現状整理等
1. 上位関連計画の整理
2. 駅周辺状況の整理
3. 駅周辺のインフラ整備の状況の整理現状整理等
4. 東静岡駅南口県有地及び駅前広場敷地内における埋設物の位置等の確認
5. 駅周辺状況及びインフラ整備状況、埋設物の位置から見た配慮事項
6. 他事例の整理
7. 関連法規の整理
第 2 章 歩行者用通路の配置検討
1. 図書館整備時の歩行者用通路
2. 将来整備時の歩行者用通路
第 3 章 図書館整備時の構造検討及び概算事業費の算出
1. 図書館整備時の構造検討
2. 図書館整備時の概算事業費の算出
第 4 章 関係機関協議
1. 関係機関協議
2. 協議結果のまとめ
3. 図書館設計への反映
4. 申請可能な案の作成
第 5 章 イメージパース作成

令和 3 年 3 月

■ 業務概要

（１）業務の目的

静岡県では、東静岡駅周辺地区（以下「本地区」という。）において、「“ふじのくに”の「文化力」を活かした地域づくり基本構想（平成２７年３月）」で示している「文化とスポーツの殿堂」の形成を目指し、静岡市と連携して、南口県有地と北口市有地の利活用の検討を進めている。北口市有地については、静岡市がローラースポーツパークとして暫定的に活用しているが、本年度、静岡市が策定を進めている「駿河まなびのまちづくりグランドデザイン」の中で、新たな利活用に向けた検討が実施されている。また、南口県有地については、静岡県が県立中央図書館を先行整備する方針としている。

本業務では、東静岡駅南北公有地の回遊性や移動の利便性・快適性の向上を目的に設置を予定している歩行者用通路（ペデストリアンデッキ）について、南口の将来整備を想定した整備方針を整理するとともに、先行整備する図書館の設計に必要な条件等を、取りまとめるものである。

（２）業務概要

- 業務名 令和２年度東静岡駅南口歩行者用通路概略検討業務委託
- 業務箇所 東静岡駅周辺（位置図参照）
- 契約日 令和２年11月20日
- 履行期間 契約日（令和２年11月20日）から令和３年３月23日まで
- 業務項目 現状整理等
歩行者用通路の配置検討（図書館整備時、将来整備時）
図書館整備時の歩行者通路構造検討
図書館整備時の概算事業費の算出
関係機関協議
イメージパース（図書館整備時、将来整備時）の作成、報告書作成、協議・打合せ

（３）業務内容

本業務の内容は、下表のとおり。

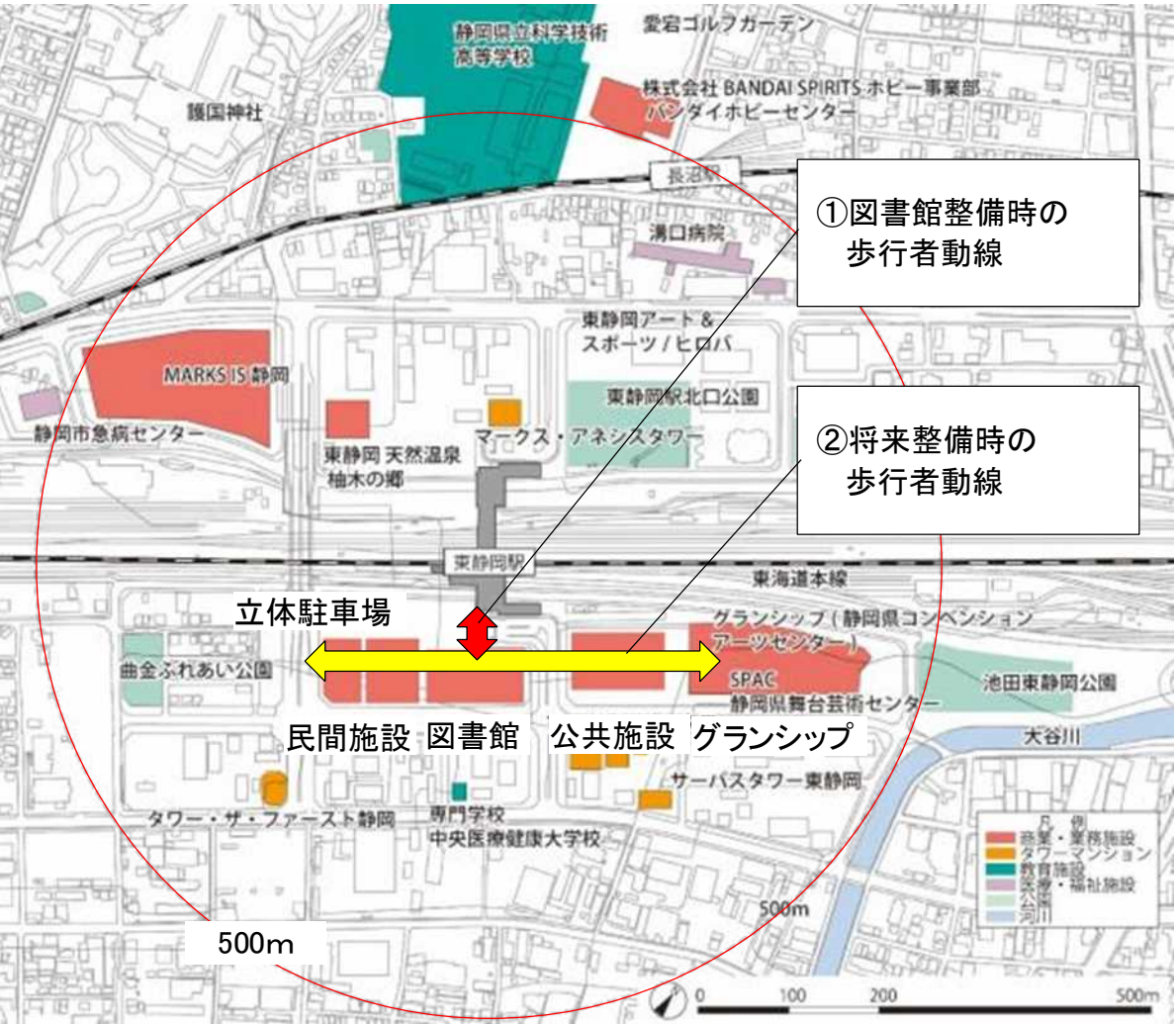
項目		内容等	備考
１．現状整理等		駅周辺のインフラ整備の状況整理 関係法令や計画、必要な手続きの整理 類似事例の収集、整理	
２．歩行者用通路の配置検討	図書館整備時	最適な位置を検討 駅舎との接続検討	複数案
	将来整備時	将来整備施設を仮定し設置位置等を概略の比較検討	
３．図書館整備時の構造検討及び概算事業費の算出			
４．関係機関協議			
５．イメージパース作成	図書館整備時	鳥瞰図：１枚 グラウンドレベルからの透視図：２枚	３枚
	将来整備時	・鳥瞰図：２枚 ・グラウンドレベルからの透視図：１枚	３枚
打合せ		５回（着手時、中間３回、完了時）	

（４）業務工程

本業務の内容は、実施工程は下表のとおり。

	令和２年度									
	11月		12月		1月		2月		3月	
（１）現状整理等										
（２）歩行者用通路の配置検討										
（３）図書館整備時の歩行者用通路構造検討										
（４）図書館整備時の概算事業費の算出										
（５）関係機関協議										
（６）イメージパース作成										
（７）報告書の作成										
（８）協議・打合せ										

（５）位置図



■ 業務報告書の概要

第1章 現状整理等

1. 上位・関連計画の整理

- ・上位・関連計画から見た図書館整備への配慮事項を以下に整理する。

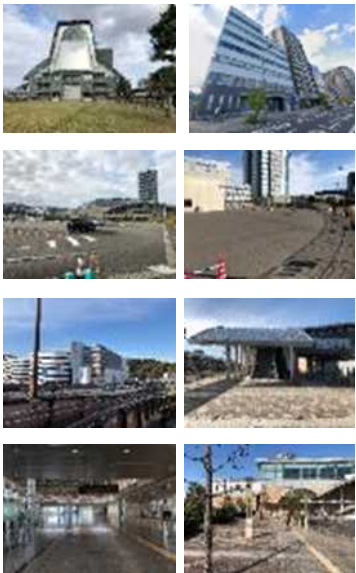
■ 上位・関連計画から見た配慮事項	
計画名称	配慮事項
“ふじのくに”の「文化力」を活かした地域づくり基本構想	○東静岡駅周辺の「陸の玄関口」にふさわしいまちづくり 「文化とスポーツの殿堂」の核となる駅前県の有地及び市有地の形成に当たっては、 <u>南北を快適に移動できる歩行者空間の整備や、デザイン、景観の一体的なコーディネートなど、駅南北の統一感あるまちづくりを進める視点が重要。</u> ○都市機能の向上を図る県の有地の有効活用 ・「静岡」を世界に売り込むイベント・コンベンションの継続的開催 ・玄関口として備えるべき情報発信や結節点の機能
新県立中央図書館基本計画	・施設の整備として、 <u>ユニバーサルデザインに配慮した施設や設備の整備、駅利用者及び周辺の学生等がスムーズに立ち寄れる動線への配慮することが必要。</u> ・ <u>来館者数は、100万人程度を想定。</u> ・ <u>駐車場はグランシップとの共用とし、一体で整備。</u> ・開館時間・休館日は、現行の運用を基に、夜間利用への配慮など利用者ニーズを考慮し、 <u>周辺施設との連携・協力</u> を図りながら弾力的に決定。
新県立中央図書館整備計画	・全館移転に伴い、既存の県立中央図書館機能を拡充する。さらに、新たなタイプの図書館としての機能を拡張するため、県民の学び・交流を通じて新たな文化の創出につながる機能を導入する。 ・導入機能は、従来の図書館機能、新しいタイプの図書館機能、緑地広場・テラス、駐車場（平面）駐輪場、 <u>歩行者通路（ペデストリアンデッキ）</u> である。 ・図書館の利用者、グランシップや東静岡駅の利用者、駅周辺居住者など、すべての人々の利便性向上につながる、安心して利用できる施設とする。 ・図書館は、主要道路沿いの空間に、地区整備計画で定められた壁面後退を上回るセットバックに努めるとともに、隣接する街路空間と併せ、敷地を有効に活用していくことでエリア全体の賑わいの創出を図る。 ・ <u>東静岡駅南北自由通路の南口側西面より、新県立中央図書館に繋ぐペデストリアンデッキを施設計画エリア内（市有地の一部含む）に配置し、図書館へのバリアフリー化、利便性の向上を図るとともに、一体的な利用が可能となる整備を行う。</u>

静岡市 立地適正化計画	・東静岡周辺地区は集約化拠点形成区域（教育文化拠点）であり、誘導施設として、大規模ホールや図書館が位置付けられている。
静岡市景観計画 景観計画重点地区 東静岡駅周辺地区	・富士山の眺望に関して、新築、増築等の建築行為の際には、地区内の良好な富士山眺望を確保することが必要。 ・不特定多数の人が利用する建物の新築、増築等の建築行為の際には、下図地点からの富士山眺望を阻害しないことを、フォトモンタージュ※等により検証。 ※フォトモンタージュ：数種の写真を組み合わせて一枚の写真とすること、合成写真
静岡都市計画地区計画 東静岡地区計画	・地区整備計画で核施設地区に設定させており、建築物の敷地面積に対する割合の最低限度としては1,000㎡、 <u>建築物の高さの最低限度については9m。</u> ・壁面の位置の制限は図書間を中心に南側と東側で3m、北側で2mの制限がかかるが、 <u>公共用歩廊その他これらに類するものについてはこの限りではない。</u> ・ <u>建築物の外壁、屋根等の色彩は原色を避けるなどの配慮。</u>

2. 駅周辺状況の整理

- ・駅周辺のインフラ整備状況（歩道、昇降階段等）を整理
- ・「図書館と駅舎をつなぐ歩行者用通路」の検討に必要な東静岡駅南口県の有地及び駅前広場敷地の埋設物を確認
- ・通路の整備と管理に関する法令・計画・手続きを整理
- ・参考となる類似事例を収集し、構造・工事費・整備者・管理者等を整理

<p>①周辺地区の状況</p> <ul style="list-style-type: none">・東静岡駅周辺地区は、複合型高機能都市の形成を目指し土地区画整理事業で整備された面積約50.5haの地区・静岡市都市計画マスタープランでは、定住人口の誘導、文化・スポーツ、国際交流、情報発信等の都市機能の集積を図り、J R静岡・清水駅周辺とは異なる魅力とにぎわいのある都市空間の形成が位置付けられている <p>②「文化とスポーツの殿堂」の形成</p> <ul style="list-style-type: none">・“ふじのくに”の「文化力」を活かした地域づくり基本構想で、東静岡駅周辺の「陸の玄関口」にふさわしいまちづくり、都市機能の向上を図る県の有地の有効活用が位置付けられている・市の総合計画では、市の「五大構想」で東静岡地区は教育文化拠点、静岡県と市の連携により、新たな賑わいと交流の核となる「文化・スポーツの殿堂」の整備を目指す、と位置付けられている	<p>③南口の状況</p> <ul style="list-style-type: none">・グランシップやマンションの他、専門学校等が立地・駅前の県の有地には図書館を整備予定・将来的には民間施設、駐車場、公共施設を整備予定 <p>④北口の状況</p> <ul style="list-style-type: none">・駅前の市有地（「アート&スポーツ/ヒロバ」）はローラースポーツパークとして活用。この場所は、アリーナ整備の候補地・MARKS IS 静岡やマンションの他、温泉施設などが立地 <p>⑤駅(自由通路の状況)</p> <ul style="list-style-type: none">・高さGL+約10mの位置に幅員15m、延長約72m（動く歩道の内側は7.5m）の通路・南口・北口ともEV、上りESCが設置されている <p>⑥駅周辺の埋設物</p> <ul style="list-style-type: none">・駅前広場内の埋設物は、上水、下水、ガスを確認・駅舎およびその周辺の埋設物は、給水管、電気（中部電力：高圧受電ケーブル）、通信（信号通信ケーブル）を確認・駅舎およびその周辺の埋蔵文化財として、古代東海道の遺構の位置を確認
---	--




3. 駅周辺のインフラ整備の状況の整理等


- 歩行者用通路の配置検討に必要となる、駅南口を中心とした周辺のインフラ整備の状況（歩道、階段、昇降施設等）を整理する。

■ 主要インフラ位置図

東静岡南北線 幅員 40m



⑬東静岡南北線
(歩道部: W=約 2.5m)



⑭東静岡南北線 EV

東静岡南口環状線 幅員 16m




⑪東静岡南口環状線 県有地北側
(歩道部: W=約 3.5m)




⑫東静岡南口環状線 東静岡駅通路
交差部 (歩道部: W=約 3.5+αm)

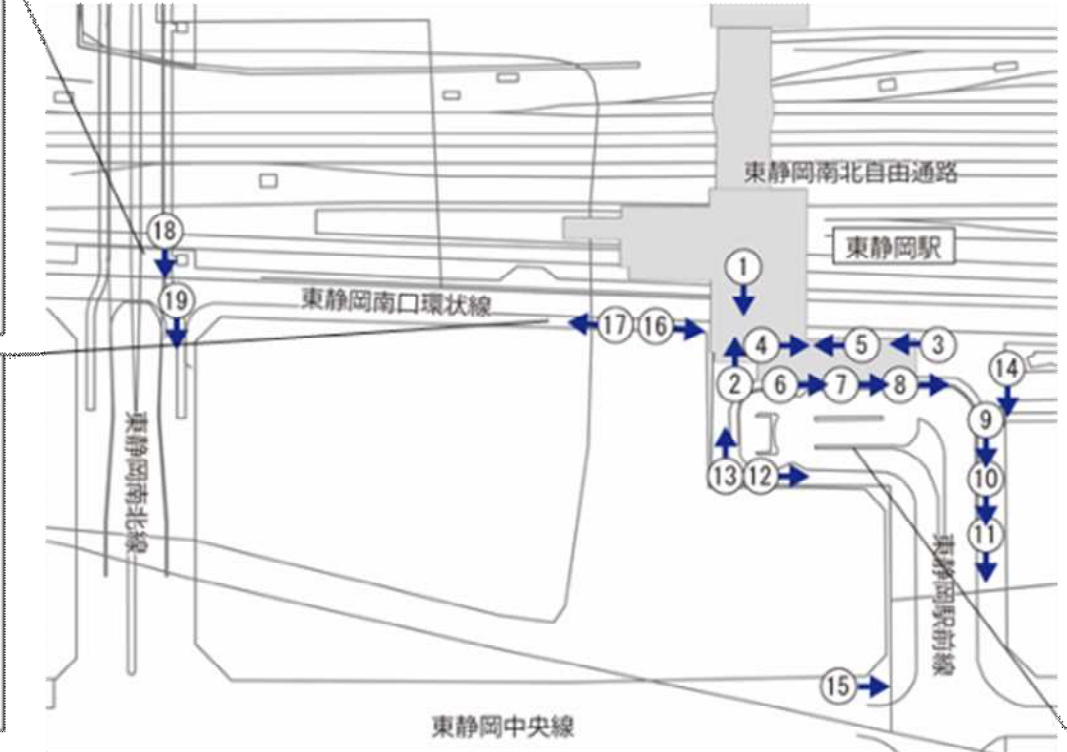
南口駅前広場 4800 m²



⑬駅前広場 西側歩道部
(W=約 10m)



⑭駅前広場 南側歩道部
(W=約 6m)



⑥駅前広場タクシー乗降場・身障者乗降場(歩道部:W=約 4.5m)うち、シェルター (W: 約 2.5m)



⑦タクシー乗降場



⑧バス乗降場(東静岡静大線: 運休中)



⑨長距離バス乗降場(京都・大阪方面)



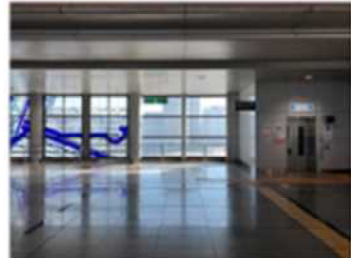
⑩バス乗降場(日本平・県立美術館方面、静岡駅・新静岡方面)




⑪バス乗降場(大谷方面・日本平動物園方面、静岡競輪場方面)




東静岡南北自由通路 階段・昇降施設等




①通路部 右手に EV が見える
基本部 15m (延長約 72m)
拡幅部 25m (延長 南口約 46m、北口約 37m)



②EV20人乗り 地上部



③東静岡駅 東側階段 (W=約 3.8m)、④東静岡駅 西側階段 (W=約 2.2m)
上り ESC (W=約 1.5m)



⑤東静岡駅 階段 (W=約 3.8m)、
上り ESC (W=約 1.5m)、踊り場

東静岡駅前線 幅員 40m、東静岡中央線 幅員 30m



⑭東静岡駅前線 東側
(歩道幅員: W=約 10m、うち、バスシェルター (W=約 2.5m)、歩道部シェルター (W=約 3.5m))



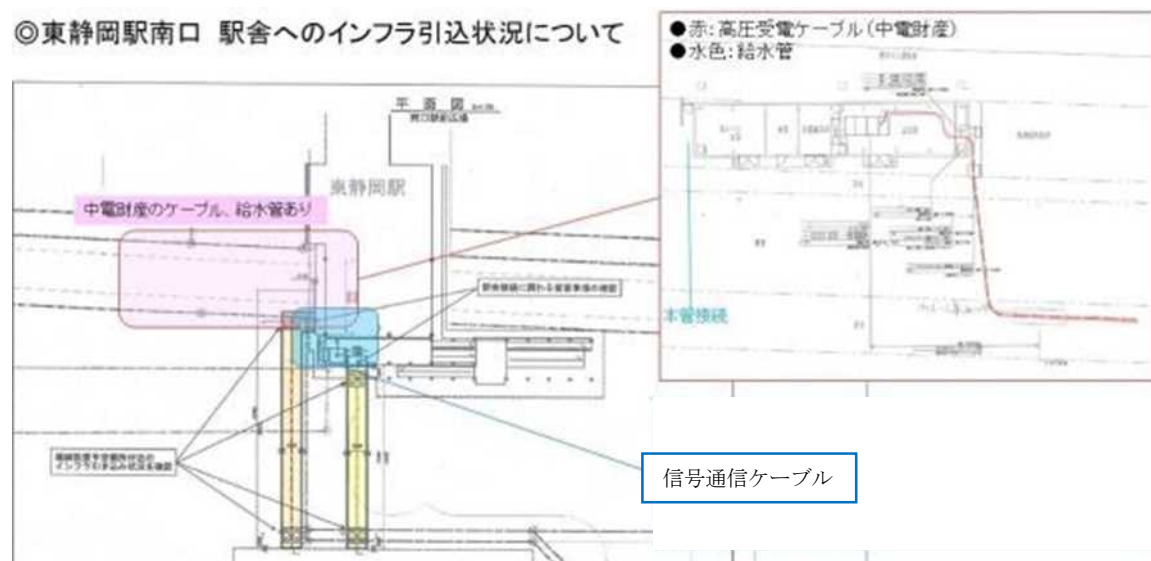
⑮東静岡駅前線と東静岡中央線の交差部(歩道幅員:W=約 10m)

資料：静岡市地図情報インターネット提供サービス、道路台帳情報HP、静岡市HP東静岡駅・南北自由通路の概要

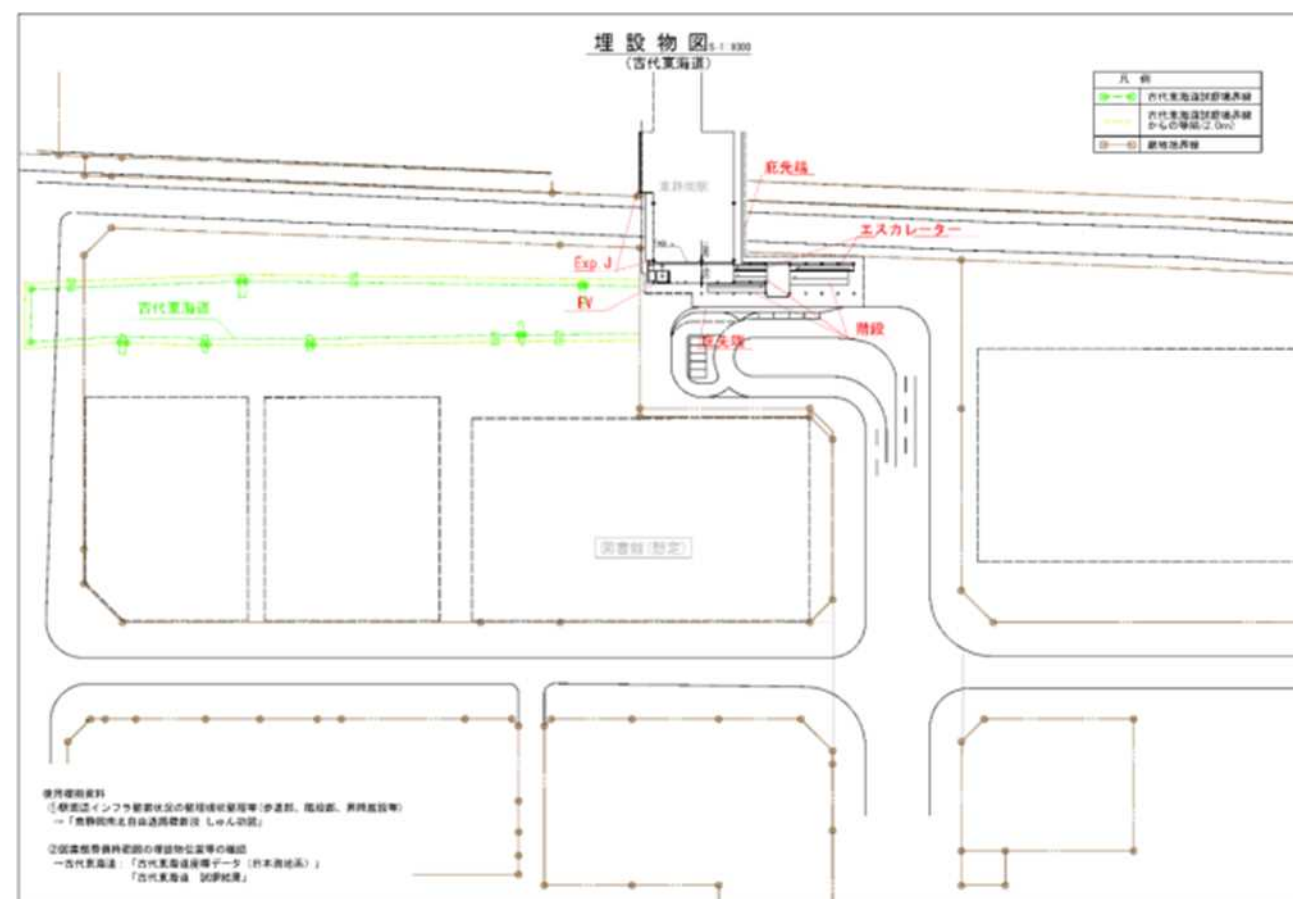
● 東静岡駅南口県有地及び駅前広場敷地の埋設物

- [illegible]

- ◎東静岡駅南口 駅舎へのインフラ引込状況について



県有地北側に幅13m～15m程度の古代東海道が、地表下1.8m～2.3m程度に現存することが確認された。



5. 駅周辺状況及びインフラ整備状況、埋設物の位置から見た配慮事項

- ・駅周辺状況から見た図書館整備時の歩行者通路整備への配慮事項を整理する。

■ 駅周辺状況から見た図書館整備時の歩行者用通路整備への配慮事項

区分		配慮事項
東静岡駅	東静岡駅自由通路 階段部	駅利用者は約17,000人であり、これが南北に分かれて歩行する。階段部の幅員は、約3.8mとなっている。階段は踊り場から下で2方向に分岐しており、東側はそのままの約3.8mの幅員であるものの、西側は折り返す構造となっており、幅員が約2.2mとなっており狭くなっている。
	東静岡駅自由通路 昇降施設等	北口・南口ともにエレベーターが1基ずつあり、エスカレーターは上りのみ設置されている。
駅前広場	歩道	駅側の階段前の東西方向の歩道幅員は4.5mであり、そのうち2.5mがバスシェルターとなっているため、有効幅員は2.0mしかなく、多くの歩行者が歩くと想定していない。 同様に県有地と駅舎の間の通路も、有効幅員は2.0mしかなく、多くの歩行者が歩くと想定していない。 図書館敷地に隣接する東西方向の歩道幅員は、6.0mである。また、南北方向の歩道幅員は10mであり、そのうち2.5mがバスシェルターとなっているため、有効幅員は7.5mとなる。
	バス	バスの運行本数は、南口は平日が80本／日、土日祝日が59本／日、北口は平日が15本／日、土日祝日が6本／日である。 バスバースは、南口は乗車2台、降車1台がある。北口は、乗車1台、降車1台がある。
	タクシー	タクシープールは南口に20台程度、北口に20台程度の待機スペースがある。南口のタクシーバースは乗車1台、降車1台である。北口のタクシーバースは乗車1台、降車1台である。
	駐輪場	市が管理する駐輪場が、南口・北口の駅近にある。南口に734台、北口に516台の駐輪が可能である。
	駐車場	県有地のグランシップの駐車台数は、普通車約400台（うち車椅子使用者用7台）である。この場所は図書館整備が予定されているため、他の県有地で駐車場を整備する必要があるほか、グランシップまでの動線確保が必要である。
駅前広場及び 東静岡南北線東側	歩道	幅員は10mであるが、バスシェルターがある場所では、バスシェルター部分を除外した7.5m分が有効幅員となる。
埋設物	駅前広場内	駅前広場内の埋設物は、上水、下水、ガスを確認した。いずれも橋脚の設置位置によって支障となる可能性がある。ただし、管理者との協議によっては、切り回し等による対応も考えられる。
	駅舎およびその周辺	駅舎およびその周辺の埋設物は、給水管、電気（中部電力：高圧受電ケーブル）、通信（信号通信ケーブル）を確認した。いずれも橋脚設置の支障にはならないが、重要度の高いインフラのため、接続部の開口時などは十分に現場の配線配管を確認する必要がある。 また、埋蔵文化財は古代東海道を確認した。

6. 他事例の整理

- ・道路空間の上空に歩行者用通路を設置する場合、他事例を見ると、歩行者通路は大きくは、「道路」、「建築物」、「工作物」の3種類の位置づけで整備されている。この位置づけを細かくみると、道路として整備された場合の屋根の扱い、建築物として整備する場合の法的位置づけの違いなどがある。そのため、これらの違いを加味し、5つの区分で整理する。

■ 事例一覧

区分	A. 道路 (屋根は道路付属物)	B. 道路 (屋根は建築物)	C. 建築物 (立体道路制度)	D. 建築物 (占有)	E. 工作物
事例名	 東京都市計画 中野歩行者専用道第1号線	 竹芝開発 港歩行者専用道8号	 虎ノ門ヒルズ	 渋谷マークシティ連絡通路	 玉川高島屋連絡通路
	 中野通り横断面	 高速道路 横断面 W=6.0m	 環状2号線	 歩行者用通路3号 道路区域内 (W=12~20m) に柱がある	 道路区域内に柱はなく上空占有
所在地	東京都中野区	東京都港区	東京都港区	東京都渋谷区	東京都世田谷区
施設概要	①物件：東京都市計画 中野歩行者専用道第1号線 (中野駅北口と中野駅北口駅前広場、南北自由通路(事業中)を結ぶ) 都市計画決定、地区施設 ②幅員：W=13.0m 屋根 W=3.5m ③延長：L=約50m ④構造：鋼床版箱桁 ⑤工事費：約5億円	①物件：竹芝開発 港歩行者専用道8号(浜松町駅と竹芝地区(東京ポートシティ竹芝)を結ぶ) 都市計画道路(港歩行者専用道第8号線) 国家戦略特区認定、都市計画決定、国家戦略都市計画建築物等整備事業、道路占有許可(通路その他これらに類する施設) ②幅員：W=6.0m ③延長：L=約230m ④構造：鋼床版箱桁 ⑤工事費：約15億円	①物件：虎ノ門ヒルズ (都市計画道路 幹線街路環状第2号線の上に立体道路制度を活用し、道路内建築物(虎ノ門ヒルズ)を整備) ②幅員：W=40m ③延長：L=約200m ④構造：トンネル構造 ⑤工事費：約100億円	①物件：渋谷マークシティ連絡通路(渋谷マークシティと渋谷駅を結ぶ歩行者用通路)。道路内に橋脚あり 地区施設(歩行者通路3号) ②幅員：W=約12~20m ③延長：L=約40m ④構造：鉄骨造 ⑤工事費：約50億円	①物件：玉川高島屋連絡通路(玉川高島屋南館と二子玉川ライズドッグウッドプラザを結ぶ占有橋：工作物) ②幅員：W=3.5m ③延長：L=約30m ④構造：デッキスラブ ⑤工事費：約1億円
整備主体	区が道路(屋根は道路付属物)として整備	開発事業者が道路橋として整備後、都市計画道路として区に移管。屋根は建築物であるが国家戦略特別区域法第15条(建築基準法の特例)を活用	環状2号線：都、建物：再開発施行者	開発事業者が、道路内建築物として整備	商業事業者が店舗間を結ぶ工作物として整備(道路占有許可)
管理主体	区の道路部門	港区	環状2号線：都、建物：民間事業者	建物所有者と区が、建物下の区道の修繕に関して協定締結	商業事業者が管理(地区計画等の定めはない)

7. 関連法規の整理

- 歩行者用通路の整備に係る法令を以下に列挙する。

■ 法令等

区 分	関係法令						
	a. 道路法	b. 建築基準法	c. 都市計画法	d. バリアフリー	e. その他		
					国家戦略特別区域法	消防法	道路交通法
A. 道路 （屋根は道路付属物）	・道路法 2 条 2 項に基づく道路付属物の位置づけ ・道路法 30 条（道路の構造の基準）	・建築基準法第 6 条（建築物の建築等に関する申請及び確認）		高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 第 10 条（道路管理者の基準適合義務等）			道路交通法 77 条に基づく（道路の使用の許可）
B. 道路 （屋根は建築物）							
C. 建築物 （立体道路制度）	・道路法 4 条（私権の制限） ・道路法 47 条の 7 及び法 47 条の 8 に基づく位置づけ（立体道路、自由通路）	・建築基準法第 20 条（構造耐力） ・建築基準法第 52 条（容積率） ・建築基準法第 53 条（建蔽率） ・建築基準法第 61 条（防火地域及び準防火地域内の建築物） ・建築基準法第 44 条第 1 項第 4 号（道路内の建築制限） ・建築基準法 92 条（面積、高さ及び階数の算定） ・建築基準法 35 条（特殊建築物等の避難及び消火に関する技術的基準） ・建築基準法第 84 条の 2 第 1 項及び令 136 条の 9 第 1 項第 1 号に基づく位置づけ（高い開放性を有する建築物）	・都市計画法 11 条（都市施設） ・都市計画法 12 条の 11（道路の上空又は路面下において建築物等の建築又は建設を行うための地区整備計画） ・都市計画法 29 条 1 項 3 号（開発行為の許可） ・都市計画法第 53 条（建築の許可）	第 14 条（特別特定建築物の建築主等の基準適合義務等）	・国家戦略特別区域法第 15 条（建築基準法の特例） ・国家戦略特別区域法第 21 条（都市計画法の特例）	・消防法第 7 条（建築許可等についての消防長又は消防署長の同意） ・消防法第 17 条	
D. 建築物（占用）							
E. 工作物（占用）	・道路法 4 条（私権の制限） ・道路法 32 条 1 項 4 号に基づく道路の占用の許可	・建築基準法 2 条に基づく工作物の定義（用語の定義） ・建築基準法 88 条及び令 138 条に基づく位置づけ（工作物）	・都市計画法 29 条 1 項 3 号（開発行為の許可） ・都市計画法第 53 条（建築の許可）				

■ 静岡県の取扱い及び建築関係例規

- 歩行者用通路の整備に係る静岡県の取扱等を以下に列挙する。
- 静岡県福祉のまちづくり条例及び施行細則（平成7年10月18日条例47号）
 - 法44条第1項第4号による包括的許可基準による位置づけ
 - 別棟の取扱い（H19静岡県建築行政連絡会議合意事項）

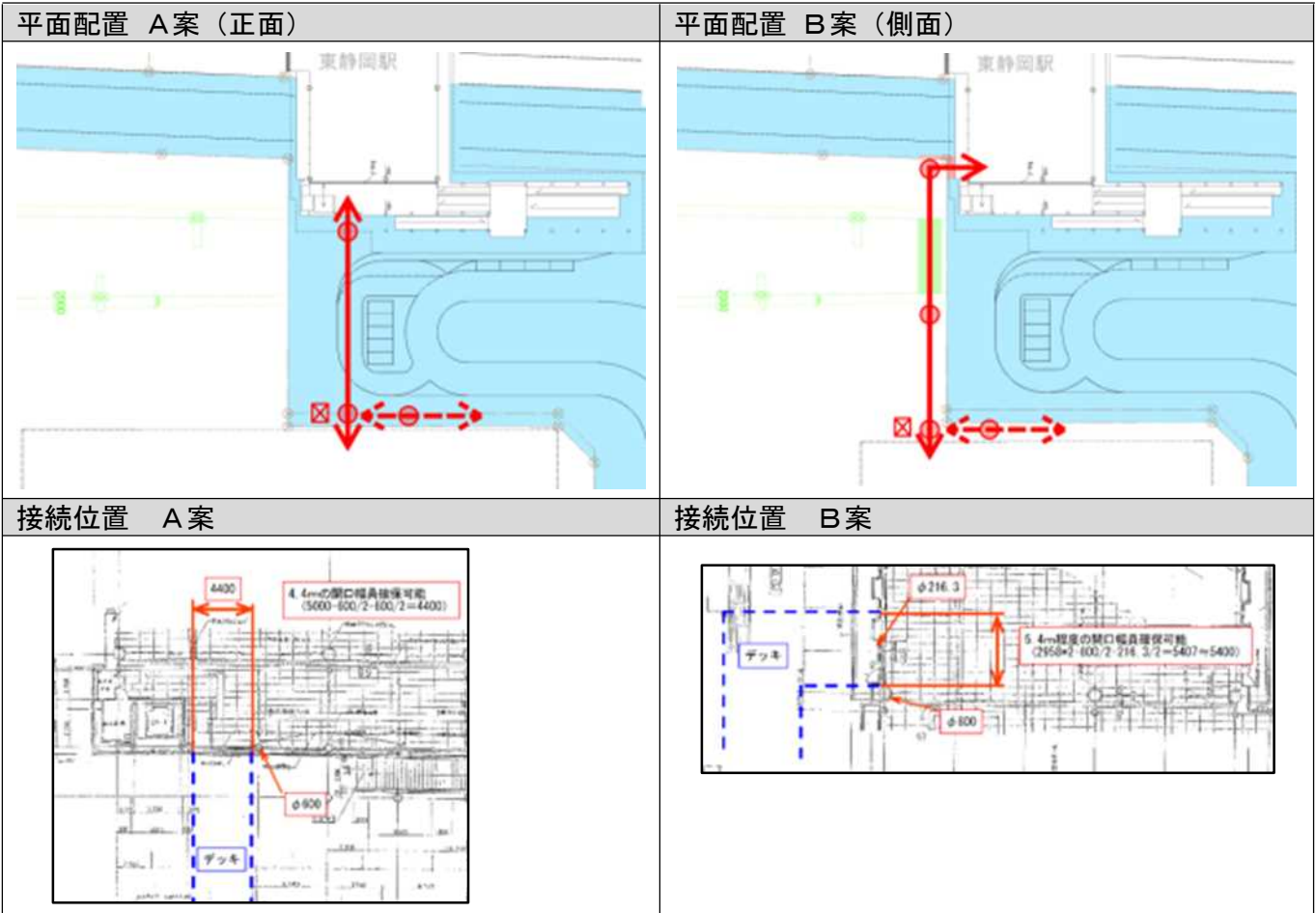
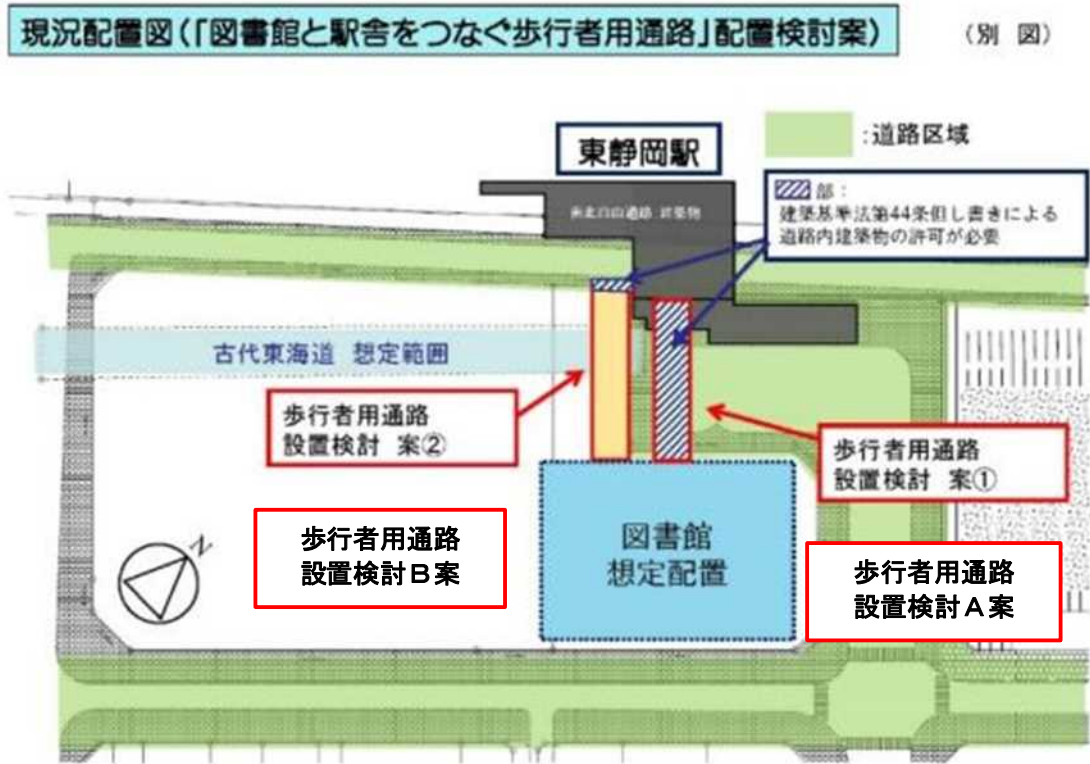
■ 静岡市の建築許可・認定の申請について

- 特定行政庁である、静岡市の建築許可・認定に必要な資料リスト、許可フロー名を以下に列挙する。
- 建築許可（事前）申請標準書類リスト
 - 法第44条第1項第4号関係及び建築許可申請標準フロー

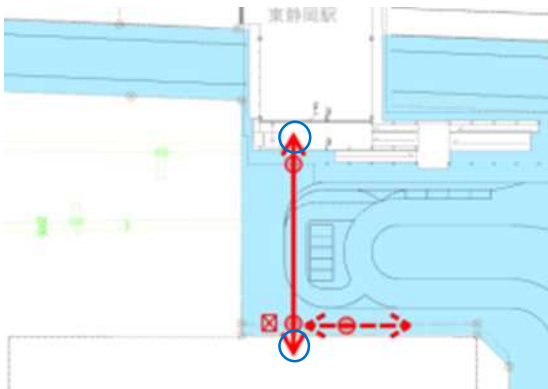
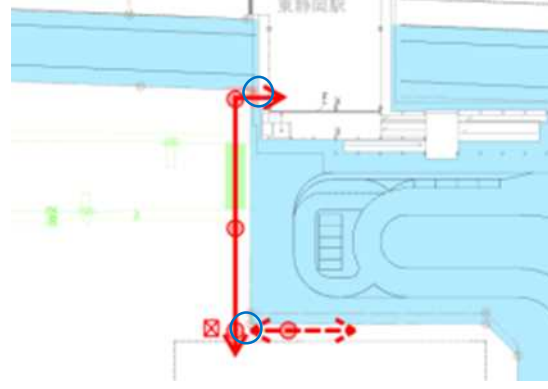
第2章 歩行者用通路の配置検討

1. 図書館整備時の歩行者用通路

- 設置位置の検討
 - ・ A・Bの2案を比較検討し、設置と延長の検討を実施
 - A案：駅舎正面接続案。
 - B案：駅舎側面接続案。
 - ・ 接続方法については、駅自由通路への構造上の影響を考慮し、駅自由通路で構造的に必要な支柱等は存置し、また分離した構造（Exp. j等）で接続する。



■ 図書館と駅を結ぶ歩行者用通路の配置検討表

図									
凡例	<div>—— 一般部 昇降部 EV ■ 施錠箇所 ○</div>								
特徴	・図書館と東静岡駅を南北に直線で結ぶ				・東静岡駅から西側に一度出してから、図書館敷地内を南北に向かう形で図書館に接続する				
構造 （暫定形整備時の デッキ延長、橋脚基 数）		県敷地内	県敷地外	合計		県敷地内	県敷地外	合計	
	延長 （m）	0	41.4	41.4	延長 （m）	54.1	5.0	59.1	
	橋脚 （基）	0	3	3	橋脚 （基）	4	0	4	
整備の考え方	・歩行者用通路は、図書館の敷地外のみで整備する ・道路あるいは建築物として整備し、駅前広場内に階段及びEV、橋脚が設置される ・県で設計施工し市に移譲する。あるいは県で設計施工し、市との協議により管理区分を決定した上で県で管理する				・図書館敷地内からの張り出し部のみ公道（駅前広場及び市道）を上空占用し、それ以外の区間は図書館敷地内で整備する ・すべて建築物として整備（建物内、テラス、独立整備）し、図書館敷地内に階段及びEV、柱が設置される				
回遊性	・駅南北自由通路の延伸上にあり、明快。東西どちらに行くにも迂回感が無い				○	・グランシップ方向に行きたい場合、施設と逆方向に出るため、違和感がある			△
必要な手 続きと協 議の容易 さ	道路	・県で設計施工し市に移譲する。あるいは県で設計施工し、市との協議により管理区分を決定した上で県で管理する			△	・建築物同士をつなぐ通路のため、道路になじまない			○
	建築物（立 体道路制 度）	・建築物（立体道路制度）を活用する場合、市として必要な手続き（都市計画道路（歩行者専用道路）、地区計画（立体的な範囲、地区施設）など）は設計に並行して行う必要がある				・建築物（立体道路制度）を活用する場合、市として必要な手続き（都市計画道路（歩行者専用道路）、地区計画（立体的な範囲、地区施設）など）は設計に並行して行う必要がある			
	建築物	・建築物とする場合、建築基準法44条1項4号の許可が必要。そのために上空占用についてアーケード協議会（警察、消防、道路管理者、建築主事、都市計画等）を開催し、その中で関係者の合意形成を得ていく必要がある ・道路占用許可が必要				・建築物とする場合、建築基準法44条1項4号の許可が必要。そのために上空占用についてアーケード協議会（警察、消防、道路管理者、建築主事、都市計画等）を開催し、その中で関係者の合意形成を得ていく必要がある ・許可案件であるものの、駅舎接続部のみ公道上（駅前広場の歩道上空）を占有するため、占有区間が最小となりA案より容易 ・道路占用許可が必要			
	工作物	・道路占用許可が必要				・道路占用許可が必要			
工程への影響	・整備形態によっては手続きが増えるため、工程に影響する可能性がある				△	・整備形態によっては手続きが増えるため、工程に影響する可能性があるが、占有区間が最小となりA案より容易			○
歩行者用通路設計の 自由度	・公道上のため、市から必要最小限の整備が求められることが想定される				△	・駅舎接続部にボトルネックがあるものの、敷地の中は自由に歩行者用通路を設計できる			◎
図書館設計への影響	・接続箇所（位置・高さ）のみが制約条件となる ・建築設計事務所だけでなく、土木系の設計事務所とJVが必要となる				○	・敷地内に歩行者用通路機能を確認する必要がある ・建築設計事務所のみで設計が可能			◎
図書館敷地への影響	・接続箇所のみが制約条件となる				◎	・歩行者用通路本体、接続箇所、階段及びEVが制約条件となる			△
歩道への影響	・公道上（駅前広場の歩道）を上空占用するほか、橋脚、階段、EVの設置に伴う道路地上部の占用により、歩道の有効幅員に影響がある				△	・駅舎接続部のみ公道上（駅前広場の歩道上空）を上空占用する。ただし歩道機能に影響はない ・階段、EVは図書館敷地内に設置となるため影響はない			◎
開放時間制限への対応	・東静岡駅との接続箇所、歩行者用通路昇降部の2箇所となる ・歩行者用通路の施錠者だけ決めれば、図書館の運営とは切り離すことができる ・EVも時間制限での利用となる				○	・東静岡駅との接続箇所、歩行者用通路昇降部の2箇所となる ・図書館閉館後の夜間も鉄道運行時間は敷地内の歩行者用通路を開放する必要がある			△
評価	○				◎ ⇒ 採用				

●整備形態の検討

- 図書館整備時の道路区域上空に歩行者用通路を設置する場合の条件整理（静岡市協議結果を反映）
（前提）・道路区域上に、幅員4m程度、できれば屋根のある歩行者用通路を設けることを想定。（歩行者人数は約5,000人/h）

		案1	案2	案3	案4	案5
		道路	道路(屋根は建築物)	建築物(立体道路制度)	建築物(上空占用)	工作物
位置づけ		・通路部分:道路(市道) ・屋根:道路付属物 (道路法 2・2)	・通路部分:道路(市道) ・屋根部分:建築物 (建基法 44・1・4)	・通路部分:建築物 ・屋根部分:建築物 (地区計画立体道路制度適用市道上)	・通路部分:建築物 ・屋根部分:建築物 (建基法 44・1・4)	・通路部分:工作物 (建基法 88・1)
基準に基づく形態		・幅:3.0m以上(立体横断施設)、最大は規定なし ・屋根あり	・幅:3.0m以上(立体横断施設)、最大は規定なし。屋根は大規模マニュアルのサービス水準の考え方に準じた幅員 ・屋根あり	・幅:1.8m以上(高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計基準(誘導基準))、最大は地区のまちづくりに必要な幅員 ・屋根あり	・幅:1.8m以上(高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計基準(誘導基準))、最大は大規模マニュアルのサービス水準の考え方に準じた幅員(敷地内の通路) ・屋根あり	・規定なし ・屋根なし
手続き	道路法	・道路に位置付けるため、駅自由通路の道路認定が必要 (・県道として整備する場合は道路法の規定がないため協議のみ)	・道路に位置付けるため、駅自由通路の道路認定が必要 (・県道として整備する場合は道路法の規定がないため協議のみ)	・道路一体建物の建築(道路法 47・7、8) ・道路の存する地域の状況を勘案し、適正かつ合理的な土地利用の促進を図るため必要があると認める	・道路の占用の許可が必要(道路法 32・1・4) ※道路占用に歩行者用通路の支柱を占有させる規定はないため、上空の占用のみに限る	・道路の占用の許可が必要(道路法 32・1・4)なだけのため、手続きは簡略
	建基法		・屋根は、特定行政庁の許可、建築確認申請が必要	・建築確認申請が必要	・特定行政庁の許可、建築確認申請が必要	(・歩行者用通路は建築物とみなされる工作物でないため、建築確認申請は不要)
	都計法		・道路部分が都市計画施設の場合、屋根は施設内の建築として許可が必要 ・地区計画における建築物の高さの制限 9 mの取り扱い、最低敷地制限 1,000 m ² の確認が必要	・地区計画の変更が必要 ・地区計画における最低敷地制限 1,000 m ² の確認が必要	・道路部分が都市計画施設の場合、施設内の建築として許可が必要 ・地区計画における最低敷地制限 1,000 m ² の確認が必要	
管理		・市(市道であるため)	・市(市道であるため) ・屋根のみ県(建築物であるため)は考えられる	・県(建築物であるため)	・県(建築物であるため)	・県(工作物であるため)
課題と対応		・ 屋根を道路付属物として取り扱うことが可能か(道路付属物は一部の用途に限定) →市と調整、不可能な場合は案2 ・ 幅員を広げる必要あり →通路機能に加え広場・眺望機能として幅員確保 →市と調整、不可能な場合は案3 ・ 市道としての位置付け困難(接続する自由通路が市道でない、市道として図書館までの必要性が薄い) →市に自由通路の市道認定の働きかけ →駅と図書館の間の公共性(市道認定に必要な条件)確保	・ 幅員を広げる必要あり →通路機能に加え広場・眺望機能として幅員確保 →屋根を広げる場合には、アリーナから回遊人数を歩行者数として多く見込む →市と調整、不可能な場合は案3 ・ 市道としての位置付け困難(接続する自由通路が市道でない、市道として図書館までの必要性が薄い) →市に自由通路の市道認定の働きかけ →駅と図書館の間の公共性(市道認定に必要な条件)確保	・ 幅員を広げる必要あり →地区計画で通路部分の幅員の必要性(自由通路からの幅員の連続性、通路機能に加え展望機能)等の位置付け ・ 柱脚設置による道路部分の自由使用への懸念(道路と一体となってその効用を全うする施設かどうか) →自由使用を阻害しない形状(柱脚位置検討、テラス部分駅舎張り出し道路部分改修等) →柱を含めて立体的に区域指定。 ・ 図書館整備スケジュールに手続きを間に合わせる必要がある →市に地区計画の変更を働きかけ	・ 幅員を広げる必要あり →アリーナから回遊人数を歩行者数として多く見込む →市と調整、不可能な場合は案3 ・ 柱脚設置による道路部分の自由使用への懸念(道路と一体となってその効用を全うする施設かどうか) →自由使用を阻害しない形状(柱脚位置検討、テラス部分駅舎張り出し、道路部分改修等) →建築敷地内のみ柱を設置し、片持ちの橋とし、上空占用のみとする必要がある	・ 屋根が設置されない →工作物では屋根の設置は不可。屋根を設置する場合は案1～4 ・ 道路でも建築物でもない →幅員は将来管理者の立場(建築・土木)による ・ 幅員を広げる必要あり →通路機能に加え展望機能としての位置付け(可能?) →市と調整、不可能な場合は案3 ・ 柱脚設置による道路部分の自由使用への懸念(そもそも工作物でも課題となるのか?)(道路と一体となってその効用を全うする施設かどうか) →自由使用を阻害しない形状(柱脚位置検討、テラス部分駅舎張り出し、道路部分改修等) →建築敷地内のみ柱を設置し、片持ちの橋とする

以上を踏まえると、道路上空に歩行者用通路を設置する場合、どの手続きにおいても法令上は実現可能である。

現在の新図書館の整備スケジュール及び現計画における静岡市の見解を踏まえると、図書館整備時の歩行者用通路は案4 建築物の整備形態とする。

整備形態、整備位置に関しては、

- ①図書館の設計公募が令和3年度に実施されること
 - ②「無余地性」、「道路の自由使用」の視点から、占用部分は少ない方が良い
 - ③歩行者用通路には、歩行の用に供する以外の機能も付加したい
- という3点を重視する。

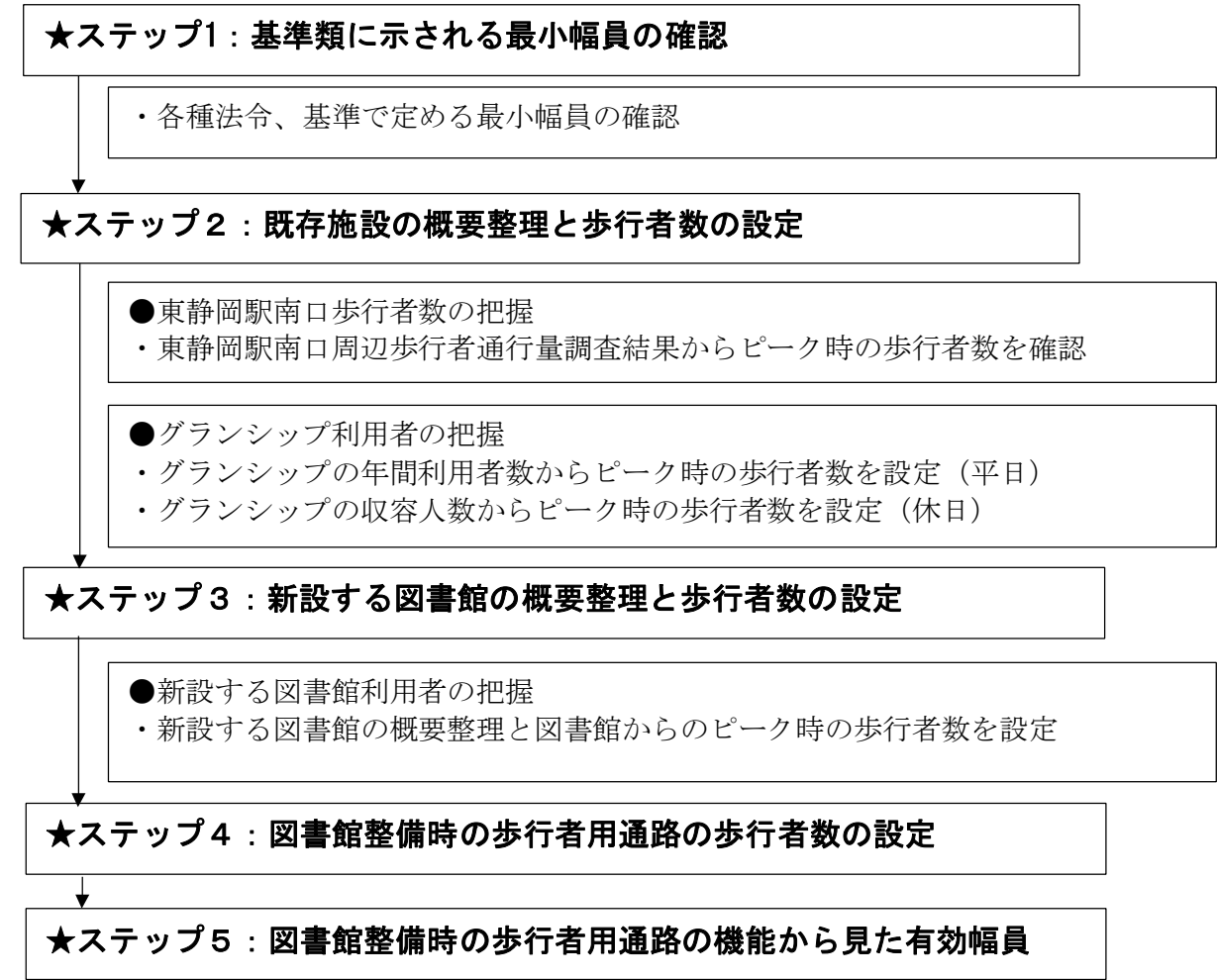
そのため、道路占用部分が限定的な計画であり、かつ、図書館本体の設計において、設計者の自由な提案のもと、一体的・統一的なデザインで周囲の景観と調和のとれた施設とできること。

また、図書館のための通路としての利用に限らず、幅広く、駅利用者などのたまり空間、図書館の屋外的利用による機能の拡張など、快適な空間を整備していくため、歩行者用通路設置検討B案で、以降の検討を進めることとする。

● 幅員検討

図書館整備時の歩行者用通路の幅員検討にあたり、既存歩行者とグランシップの利用者数、新設する図書館と駐車場の規模を想定し、図書館整備時の歩行者用通路の幅員を設定する。

■ 検討フロー



■ 既存施設＋新施設（図書館）＋イベント（グランシップ）（休日）

	各施設名	図書館整備時の ピーク時発生集中 交通量（歩行者） （人T. E/h）	図書館整備時の歩行者用 通路の歩行者数 （歩行者用通路のピーク時 発生集中交通量 （歩行者）） （人T. E/h）	備考
既存施設	東静岡駅 南口	294	147	※1
新施設	図書館	688	688	※2
イベント	グランシップ	8, 000	4, 000	
合計			4, 835	

※1 休日ピーク率 令和2年12月 交通量調査結果より 294÷2, 853＝10. 3％

※2 年間開業日数は、グランシップと同じ300日と設定し、
年間利用者数（人）÷年間開業日数（日）×利用者の行帰りで倍1, 000, 000÷300×2
＝6, 666. 6≒6, 667（人T. E/日）
1日当たりの来退出者数×ピーク率＝6, 667×10. 3÷100＝686. 7≒688

■ 図書館整備時の歩行者用通路における歩行者数
 既存施設+図書館+イベント（グランシップ）（休日）幅員：3.6m

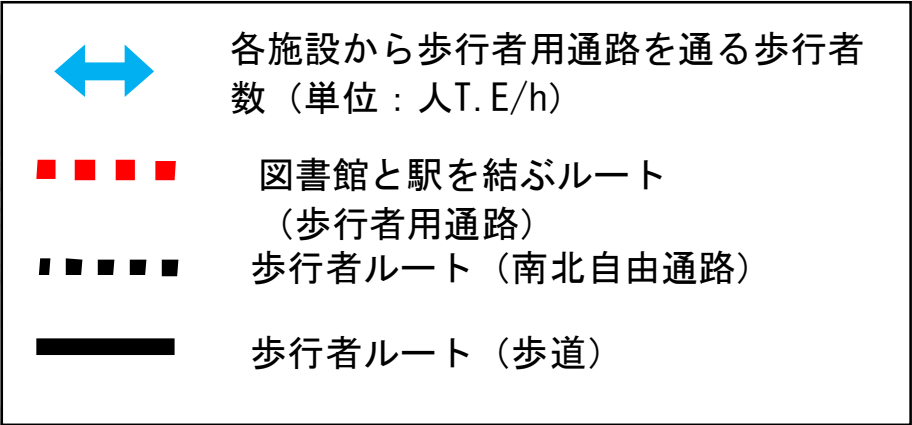
図書館整備時の歩行者用通路における歩行者数（人T.E/h）
 = 東静岡駅南口歩行者数 ÷ 2（地上・歩行者用通路に区分） + 図書館からの歩行者数
 + グランシップからの歩行者数（イベント終了時退出者） ÷ 2（方向別に区分）
 = $294 \div 2 + 688 + 8,000 \div 2$
 = $147 + 688 + 4,000$
 = 4,835

東静岡駅自由通路歩行者数（人T.E/h）
 = 東静岡駅南口歩行者数
 = 294

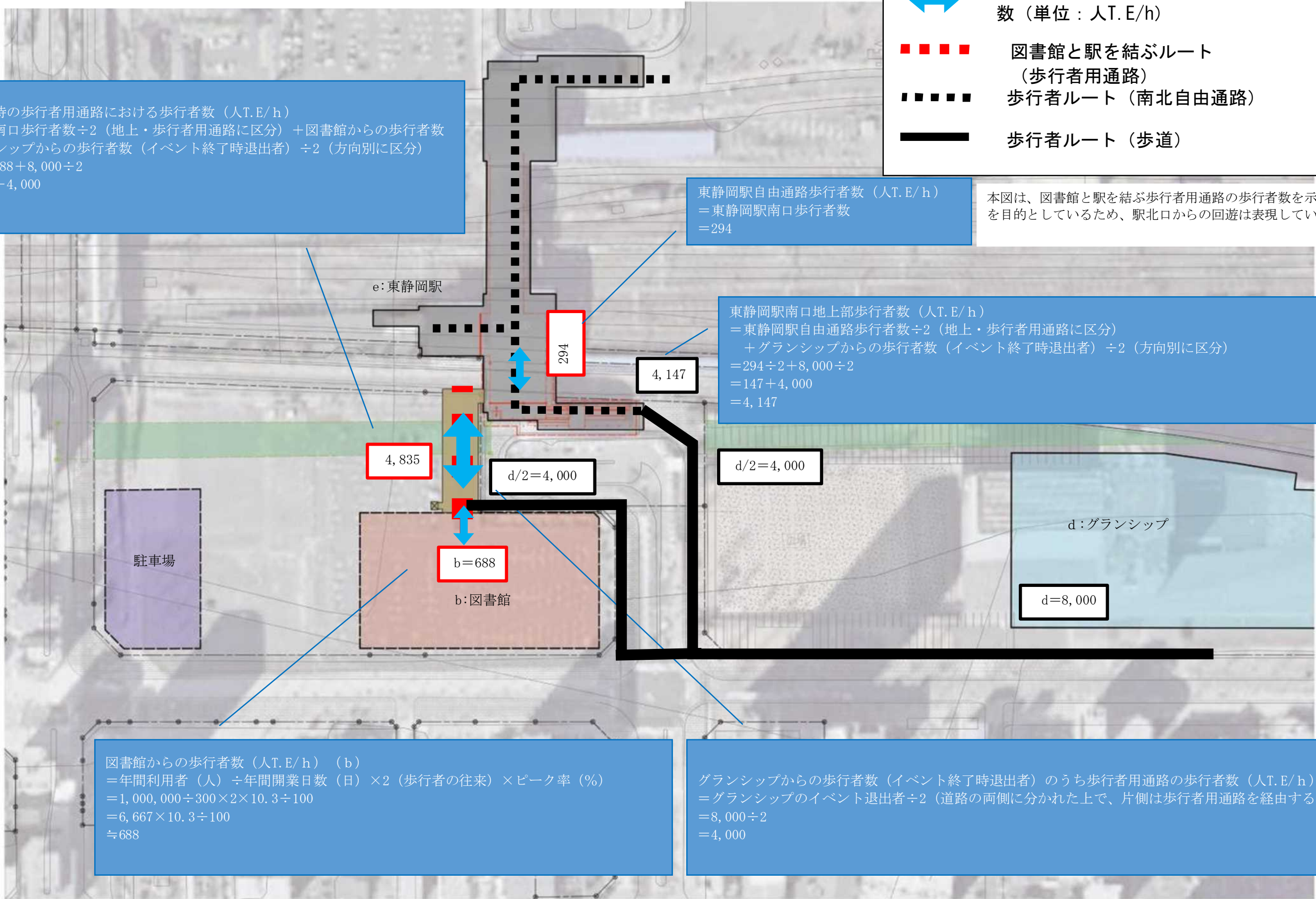
東静岡駅南口地上部歩行者数（人T.E/h）
 = 東静岡駅自由通路歩行者数 ÷ 2（地上・歩行者用通路に区分）
 + グランシップからの歩行者数（イベント終了時退出者） ÷ 2（方向別に区分）
 = $294 \div 2 + 8,000 \div 2$
 = $147 + 4,000$
 = 4,147

図書館からの歩行者数（人T.E/h）（b）
 = 年間利用者（人） ÷ 年間開業日数（日） × 2（歩行者の往来） × ピーク率（%）
 = $1,000,000 \div 300 \times 2 \times 10.3 \div 100$
 = $6,667 \times 10.3 \div 100$
 = 688

グランシップからの歩行者数（イベント終了時退出者）のうち歩行者用通路の歩行者数（人T.E/h）（d/2）
 = グランシップのイベント退出者 ÷ 2（道路の両側に分かれた上で、片側は歩行者用通路を経由する）
 = $8,000 \div 2$
 = 4,000



本図は、図書館と駅を結ぶ歩行者用通路の歩行者数を示すことを目的としているため、駅北口からの回遊は表現していない。



● 図書館整備時の歩行者数から見た考察

①既存交通量

- ・ 駅の利用者は17,020（人T.E/日）、ピーク時では2,349（人T.E/h）である。
- ・ 東西の比率は不明であるが、交通量調査結果では、平日644（人T.E/h）、休日294（人T.E/h）となっている。
- ・ 平日が休日よりも多いのは、グランシップ休館の影響と想定される。

②図書館整備のインパクト

- ・ 図書館は年間約100万人/年の利用者が見込まれており、来退館者が新規の交通負荷として加算されることになる。

③図書館整備時のピーク時交通量と歩道に与える懸念事項

- ・ 図書館から6,667（人T.E/日）、ピーク時では、688（人T.E/h）の発生集中交通量が想定される。これにピーク時のグランシップ利用者のうち図書館側のルートを通る4,000（人T.E/h）が加わり、約4,688（人T.E/h）の発生集中交通量が想定される。
（道路上は、500（人T.E/日）を超える場合は歩行者多いと判断・・・3.5m）
- ・ 駅舎正面の西側の階段が約2.2m狭く、乗降1名ずつしか通れない。また、逆側の階段、ESCに向かう場合でも、駅舎正面の歩道幅員4.5mのうち、バスシェルターを除いた有効幅員が約2.0mしかなく、こちらも同様にすれ違いのみ可能である。
- ・ 現在の駅舎自由通路は、バスやタクシーの公共交通、既存施設であるグランシップなど、駅前広場東側からの乗降をメインに考えて作られている。そのため、西側からのアクセスに対して脆弱となっており、新たな歩行者交通の受入れは回避すべきと考える。
- ・ なお、図書館に発生・集中する新規の歩行者数を仮に地上部の駅前広場に加算した場合、すれ違いを加味すると、交通ネック部に新たに2mの幅員が必要となる。

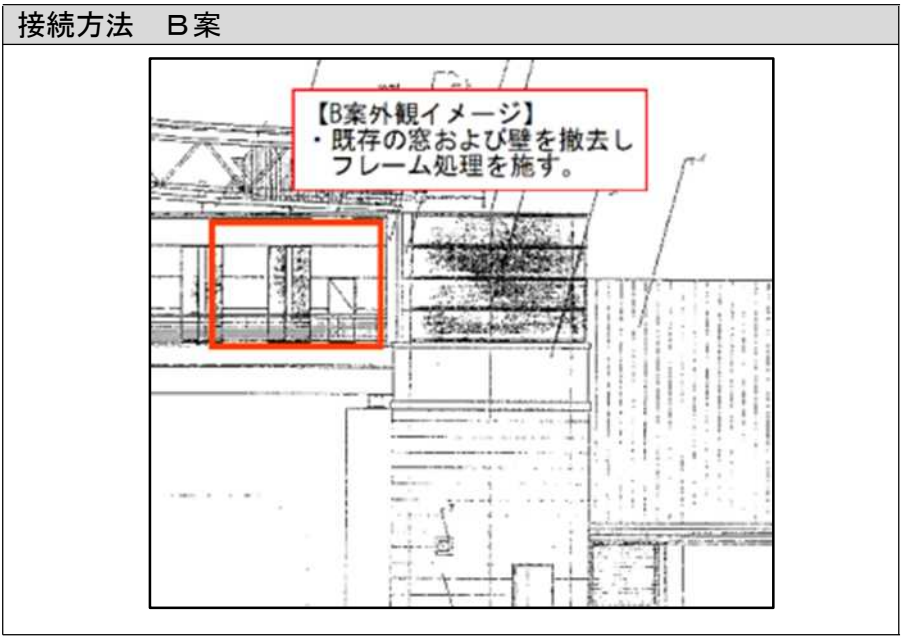
④図書館整備時の歩行者用通路の整備効果

- ・ 図書館整備時の歩行者用通路は、駅と図書館を結ぶバリアフリー動線として機能を発揮する。そのため、100%の歩行者をこの上空の動線に誘導することで、地上部の歩行者の輻輳を回避することが可能となる。
- ・ また、新たな動線の創出により、南口周辺地区の回遊性向上にも寄与する。



● 駅舎との接続方法

- ・ 既存の窓および壁を撤去し、開口部フレームを設置する。
- ・ 構造上必要な柱の撤去は行わない。
- ・ 既存駅舎への構造的負荷を与えない様、デッキ側支柱から通路を張り出す形式で接続する。
- ・ 駅舎およびデッキ間には、構造上必要な遊間を設けることとし、伸縮継ぎ手にて接続する。



● 構造形式・概算費用

①支間長

- ・ 支間長は35m程度を限度とし、地上の歩行者動線や古代東海道等を考慮した配置とする。

②上部工

- ・ 上部工はデッキとして一般的な鋼床版箱桁形式として設定する。

③下部・基礎工

- ・ 橋脚は、デッキとして一般的な鋼製橋脚として設定する。

④概算費用

- ・ 上記条件をもとに概算費用の算出を行う。
- ・ 維持管理費については、当該デッキと同規模のペDESTリアンデッキ（橋面積800㎡程度の土木デッキ）の定期点検を行った際の費用を参考にして算出した。

構造形式・概算費用	
構造形式：合成デッキスラブ、鋼製橋脚、杭基礎 概算費用：570百万円/	構造形式：合成デッキスラブ、鋼製橋脚、杭基礎 概算費用：700百万円
維持管理費	
3百万円/回・5年 ※5年に1回の土木デッキ点検を参考とした。	3百万円/回・5年 ※5年に1回の土木デッキ点検を参考とした。

歩行者用通路意匠検討

＜基本方針＞

- 歩行者用通路の駅舎との接続は側面とする。
- 敷地内の幅員は最大（15m）を想定して意匠検討を行う。
- 通路としての利用だけでなく、駅舎と図書館をつなぐ屋外テラスとして位置付け、様々なアクティビティを誘発する仕掛けを導入する。

＜導入施設のイメージ＞

- 歩行者用通路には以下の施設を導入する。
- 富士山の眺望を楽しめる「富士山テラス」
- 休憩や子供たちの遊びを促す開放的な「芝生広場」
- 緑を感じられる連続した「植栽帯」
- 植栽帯と一体となった「ロングベンチ」
- 雨天時の動線となる駅舎と図書館をつなぐ「屋根」



富士山テラスのイメージ(野尻湖テラス)



芝生広場のイメージ(新宿伊勢丹)

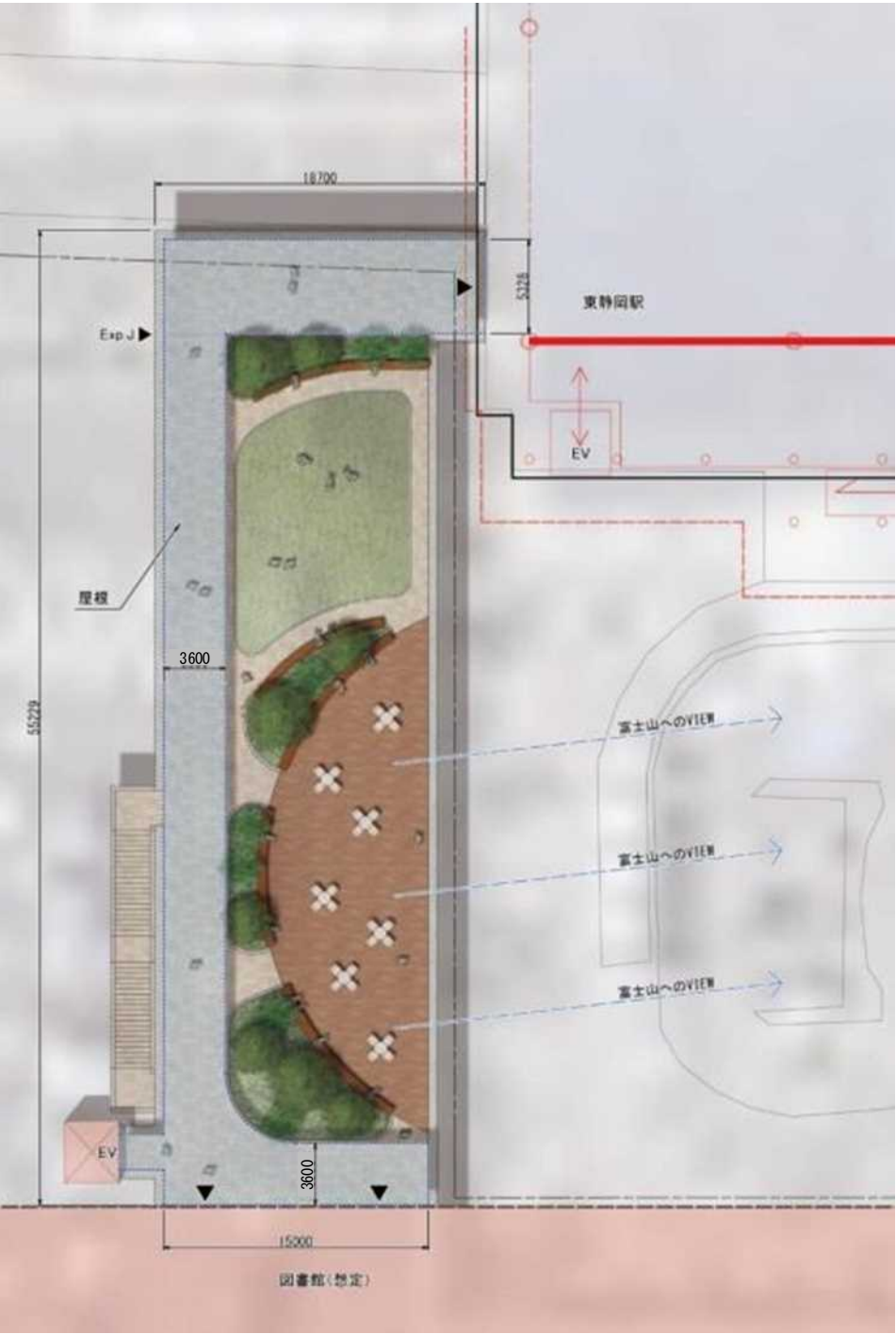


ロングベンチのイメージ

将来整備時の歩行者用通路における屋外テラス機能の比較

	a 案	b 案	c 案
歩行者用通路幅員	4m	10m	15m
通路幅員	3.6m	3.6m	3.6m
歩行者用通路面積	220 m ² (55×4)	550 m ² (55×10)	825 m ² (55×15)
通路	220 m ²	220 m ²	220 m ²
富士山テラス	0 m ²	150 m ² (テーブルベンチ：4 基)	305 m ² (テーブルベンチ：7 基)
芝生広場	0 m ²	90 m ²	150 m ²
植栽帯・ロングベンチ等	0 m ²	90 m ²	150 m ²
評価	通路機能が確保されるが、駅舎と図書館をつなぐ屋外テラス機能は確保されない	通路機能が確保されるが、駅舎と図書館をつなぐ屋外テラス機能は確保されるがやや手狭	通路機能が確保され、駅舎と図書館をつなぐ屋外テラス機能も確保※される
	△	○	◎

※公共広場の幅は 14～18m がうまく機能する
(資料：パタン・ランゲージ/C・アレグザンダー)



歩行者用通路(図書館整備時)意匠検討図 S=1:300

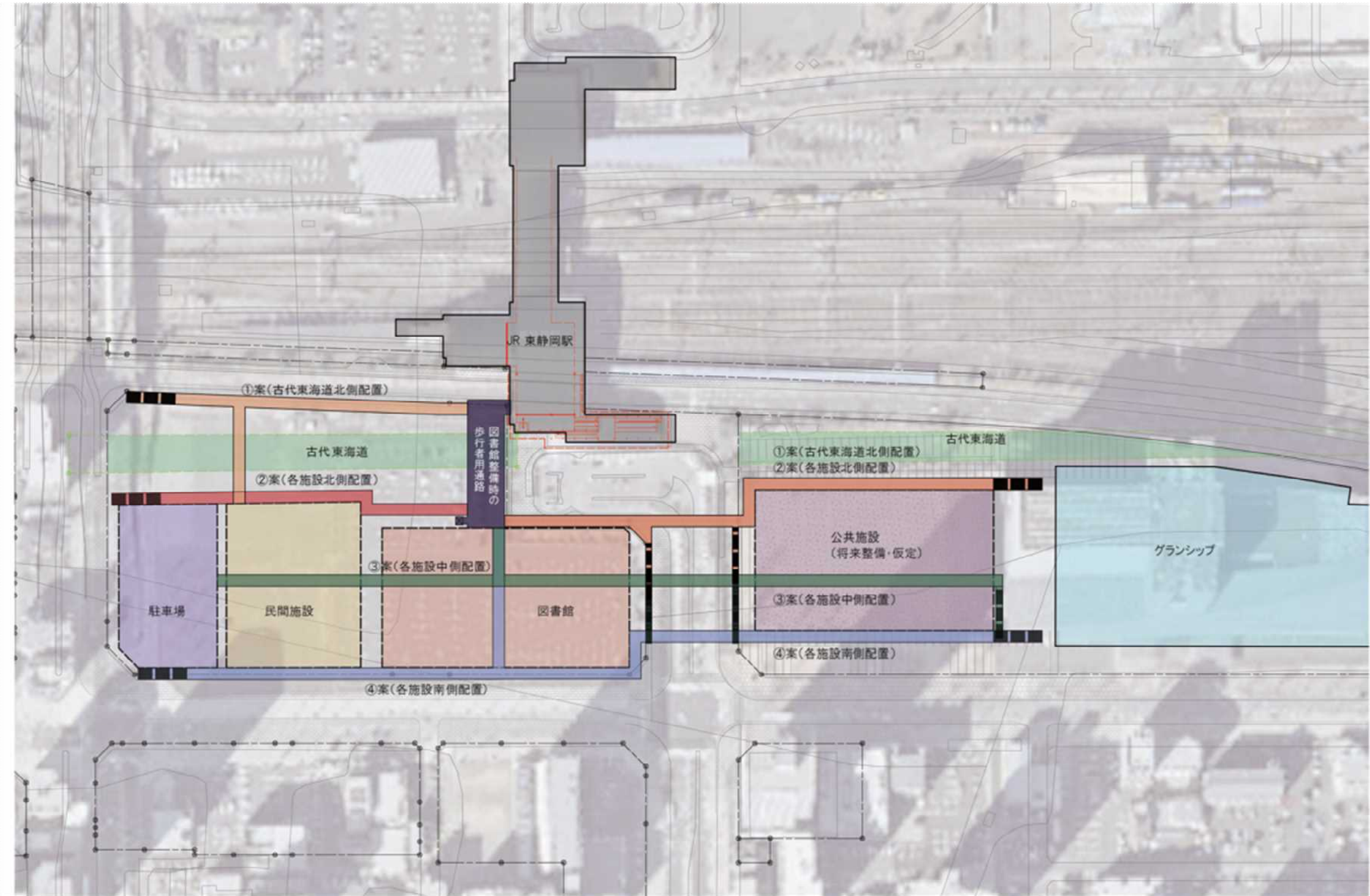
2. 将来整備時の歩行者用通路

- ・将来整備施設を仮定した場合の歩行者用通路の設置位置等について、概略の比較検討を実施

● 将来整備時の歩行者用通路の比較


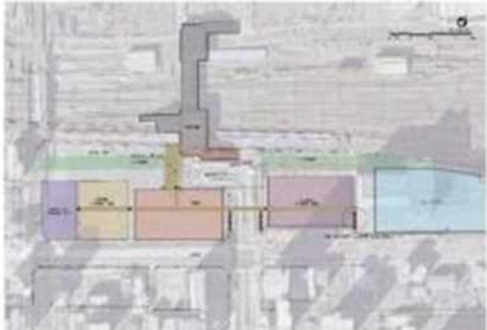
- ・将来整備時の歩行者用通路の比較は、設置位置、幅員、延長、施設との接続方法、費用、許認可手続きなどの視点から検討を行う。
- ・図書館と駅舎との歩行者用通路位置（駅側面案）を前提条件として検討、東西方向を結ぶ将来整備時の歩行者用通路の設置位置を比較検討する。
- ・検討においては、回遊性、経済性、図書館設計への影響等を踏まえたものとする。

■ 将来整備時の歩行者用通路ルート



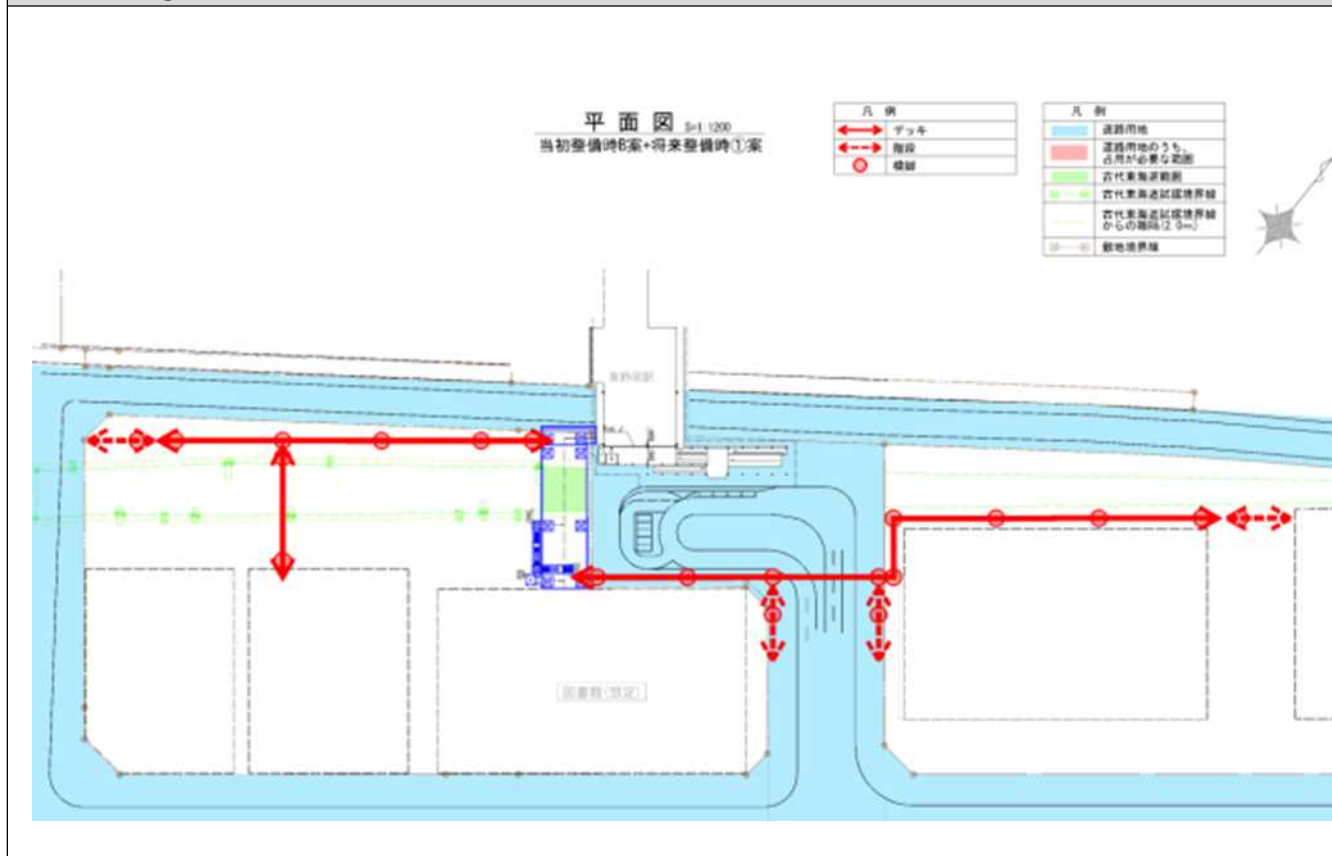
■ 将来整備時の（東西方向の）歩行者用通路配置案 比較表（図書館はこの時点では整備済として整理）

※西側：図書館と駅を結ぶ歩行者用通路より西側の将来整備時の（東西方向の）歩行者用通路 東側：図書館と駅を結ぶ歩行者用通路より東側の将来整備時の（東西方向の）歩行者用通路

		①案(古代東海道北側配置)		②案(各施設北側配置)		③案(各施設中側配置)		④案(各施設南側配置)	
配置案									
特徴		・古代東海道から北側に約8m離して、東西方向に各施設をつなぐ歩行者用通路を配置する案		・図書館北側に古代東海道から約2m離して、東西方向に各施設をつなぐ歩行者用通路を配置する案		・図書館内の中央から、東西方向に各施設をつなぐ歩行者用通路を配置する案		図書館南側に、東西方向に各施設をつなぐ歩行者用通路を配置する案	
構造	延長	南北通路:55.2m 東西通路:228.4m		南北通路:55.2m 東西通路:246.4m		南北通路:55.2m 東西通路:61.7m		南北通路:55.2m 東西通路:252.6	
	幅員	南北通路:15.0m 東西通路:4.4m		南北通路:15.0m 東西通路:4.4m		南北通路:15.0m 東西通路:4.4m		南北通路:15.0m 東西通路:4.4m	
整備の考え方		・歩行者用通路は各敷地内で整備し、道路を横断する部分のみ道路内に整備する		・歩行者用通路は各敷地内で整備し、道路を横断する部分のみ道路内に整備する		・歩行者用通路は建築物の内部廊下として整備し、各施設間を結ぶ空間のみ外部空間となる。また、道路を横断する部分のみ道路内に整備する		・公共施設内の歩行者用通路は敷地内で整備し、他の区間は道路内で整備する	
回遊性	駅南北方向の回遊性	・一番鉄道沿いのルートになるため、駅北側からのアクセスが良く、駅南北の回遊性が高まる	◎	・駅北側からのアクセスが良く、駅南北の回遊性が高まる	○	・駅北側からのアクセスは、図書館内部まで行くこととなるため、やや遠周り感がある	△	・駅北側からのアクセスは、図書館南側まで行くこととなるため、遠周り感がある	×
	駅南地区東西方向の回遊性	・西側方向は歩行者用通路を経由すると遠回りとなるため、各施設間の回遊性は地上部主体となるが、東側方向は各施設沿いに歩行者用通路を配置するため、東西方向の回遊性が高まる	△	・西側・東側方向とも各施設沿いに歩行者用通路を配置するため、東西方向の回遊性が高まる	○	・各施設内部を経由するため東西方向の回遊性は一番高い	◎	・西側・東側方向とも各施設沿いに歩行者用通路を配置するため、東西方向の回遊性が高まる	○
通路機能の運用		・各施設の建物内を通行せずに敷地内を東西方向に移動できるため、各施設の閉館後も歩行者用通路として利用可能であり運用面の調整は少ない	◎	・各施設の建物内を通行せずに敷地内を東西方向に移動できるため、各施設の閉館後も歩行者用通路として利用可能である ・西側は敷地内を歩行者用通路が横断するためのセキュリティに留意する必要がある	○	・各施設の建物及び敷地の中を開放通路で結ばないと、閉館時は動線が途絶え、自由通路としての機能を満たさない ・各施設の営業時間等との調整が必要で各施設の閉館後の歩行者用通路として利用の運用面は難しくなる	△	・図書館内を通行するため、図書館との運用面の調整が必要である ・その他の施設では建物内を通行せずに東西方向に移動できるため各施設の閉館後も歩行者用通路として利用可能であり運用面の調整は少ない	○
景観面		・歩行者用通路を独立した構造物として修景することが可能 ・歩行者用通路上に富士山への視点場を確保する事ができる ・歩行者用通路が、富士山への視点場の阻害要素にならないよう留意する必要がある	○	・歩行者用通路が、駅舎、駅前広場、図書館、グランシップ等と一体的に見られるため、歩行者用通路のデザインによって駅直近の景観に統一感を持たせることが可能 ・歩行者用通路上に富士山の視点場を確保する事ができる ・富士山への視点場の阻害要素にならないよう留意する必要がある	○	・歩行者用通路は建物内を通るルートが主となるため、歩行者用通路のデザインによる景観面での貢献度は低い ・富士山の眺望を阻害する要素となる位置にはない	○	・歩行者用通路のデザインによって、図書館やグランシップ南側の街路景観を高める要素として位置付けることが可能 ・富士山の眺望を阻害する要素となる位置にはない	○
歩行者用通路の設計の自由度		・西側・東側方向とも別敷地として、各施設設計と分離して検討することが可能	◎	・西側方向は施設敷地内に配置される場合は、各施設との調整が必要 ・東側方向は別敷地として、各施設設計と分離して検討することが可能	○	・各施設の建築計画に委ねる必要がある	△	・建物内を一部通行する部分は、各施設の建築計画に委ねる必要がある	△
必要な手続きと市との協議の容易さ		・道路内では、整備形態に応じて必要な手続きを行う必要があるが、歩道内を横断占用する部分の延長が長いため容易ではない	△	・道路内では、整備形態に応じて必要な手続きを行う必要があるが、歩道内を横断占用する部分の延長が長いため容易ではない	△	・道路内では、整備形態に応じて必要な手続きを行う必要がある	○	・道路内では、整備形態に応じて必要な手続きを行う必要があるが、歩道内を横断占用する部分の延長が一番長いため困難	×
施設整備への影響		・西側方向は建築計画への自由度は一番高い。 ・歩行者用通路と各施設を結ぶ南北方向の通路を確保する必要があり、民間施設は建築計画として、建物内の通路を担保する必要があり、設計条件となる	○	・西側方向は、建築敷地内を横断するため、各施設は建築計画として、建物外の通路を担保する必要があり、敷地北側をセットバックする必要がある	△	・各施設は建築計画として、建物内の通路を担保する必要があり、設計の大きな制約条件となる	×	・図書館の建築計画として、建物内の通路を担保する必要があり、設計条件となる	△
経済性		・概算費用:6,340百万円 ・維持管理費:15百万円 ・建物内を通行しないため、全ルートが建築デッキとなり、また南北方向の歩行者用通路も配置するため、コストは最も必要	△	・概算費用:6,210百万円 ・維持管理費:15百万円 ・建物内を通行しないため、全ルートが建築デッキとなるが、①案よりはコストは安価	○	・概算費用:2,600百万円 ・維持管理費:9百万円 ・建物内を通るルートが主となり、外部空間の区間が少ないためコストは最も安価	◎	・概算費用:5,910百万円 ・維持管理費:15百万円 ・デッキ線形がスムーズなため、線形の屈曲が多い②案よりはコストは安価	○
総合評価		○		◎		△		△	

※概算費用の根拠は「2.（4）構造形式・概算費用」にて後述

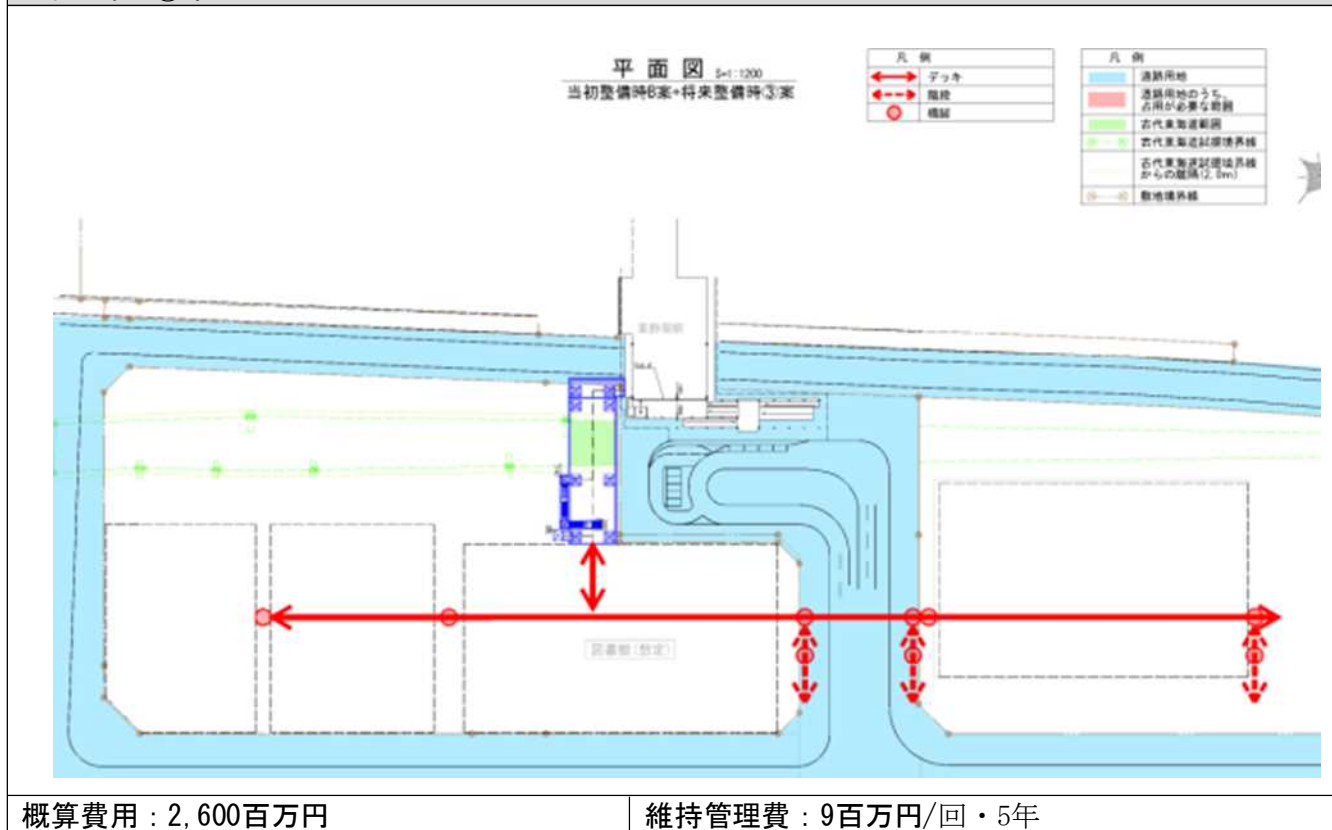
平面配置 ①案



概算費用：6,340百万円

維持管理費：15百万円/回・5年

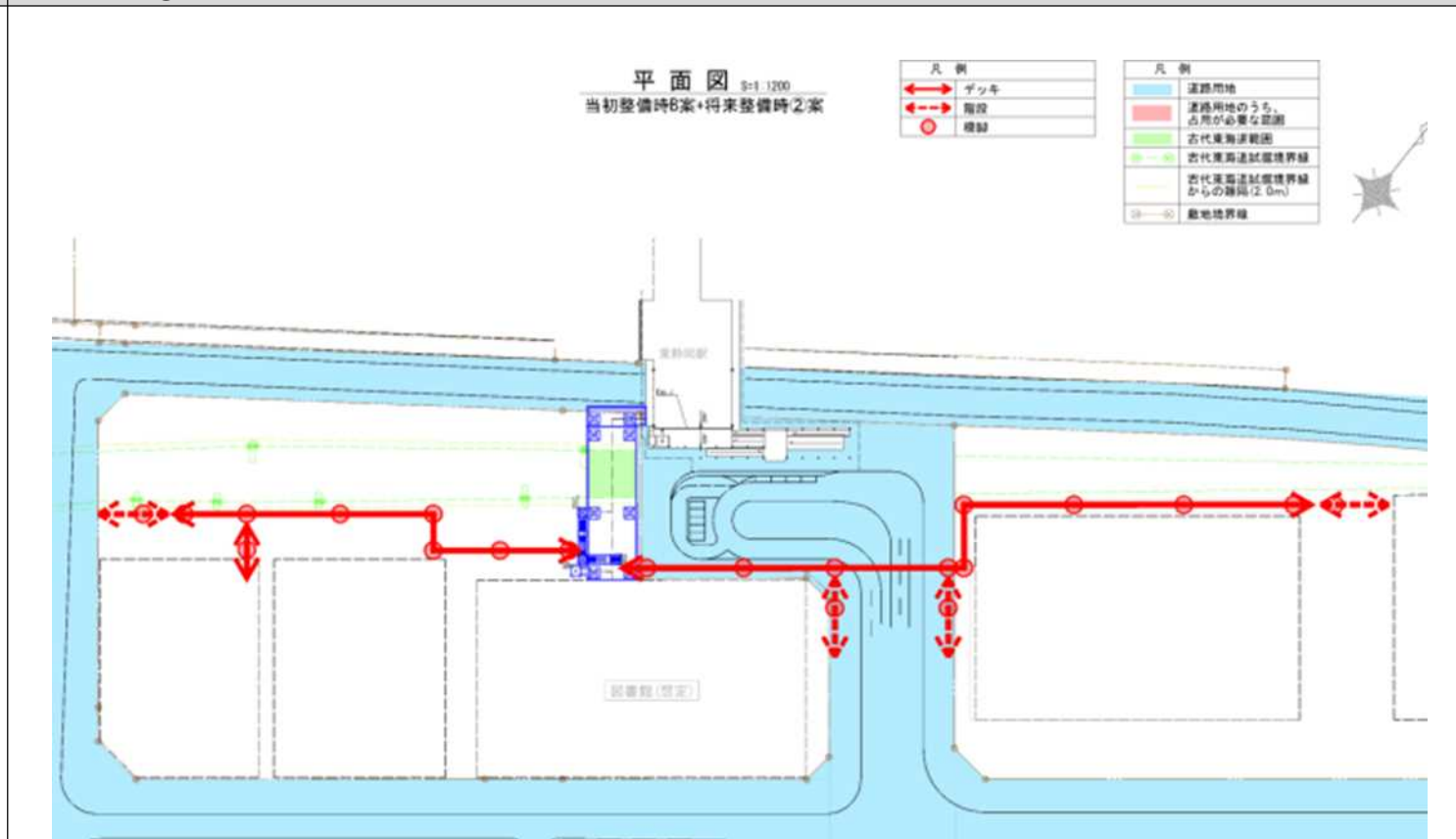
平面配置 ③案



概算費用：2,600百万円

維持管理費：9百万円/回・5年

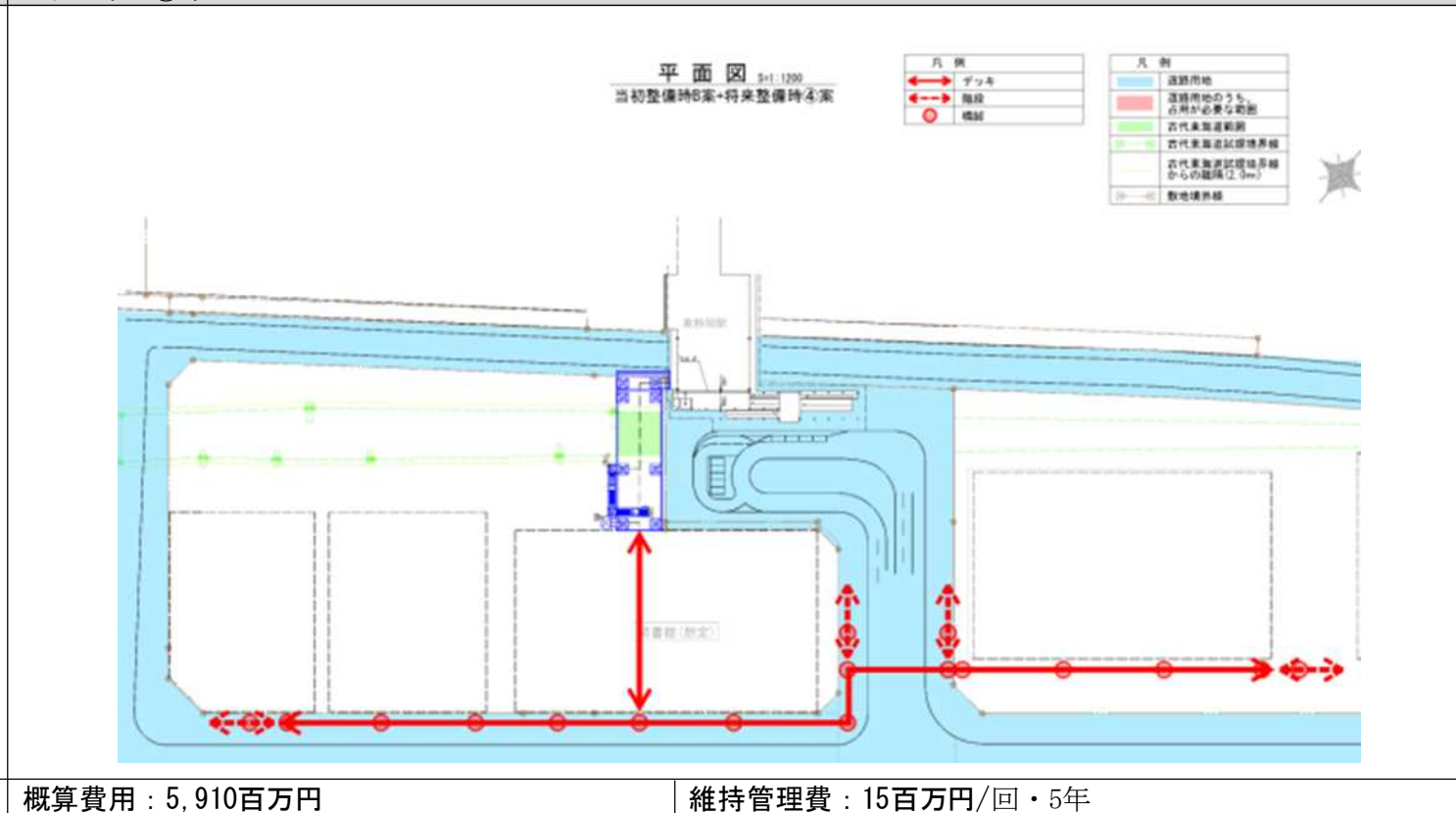
平面配置 ②案



概算費用：6,210百万円

維持管理費：15百万円/回・5年

平面配置 ④案



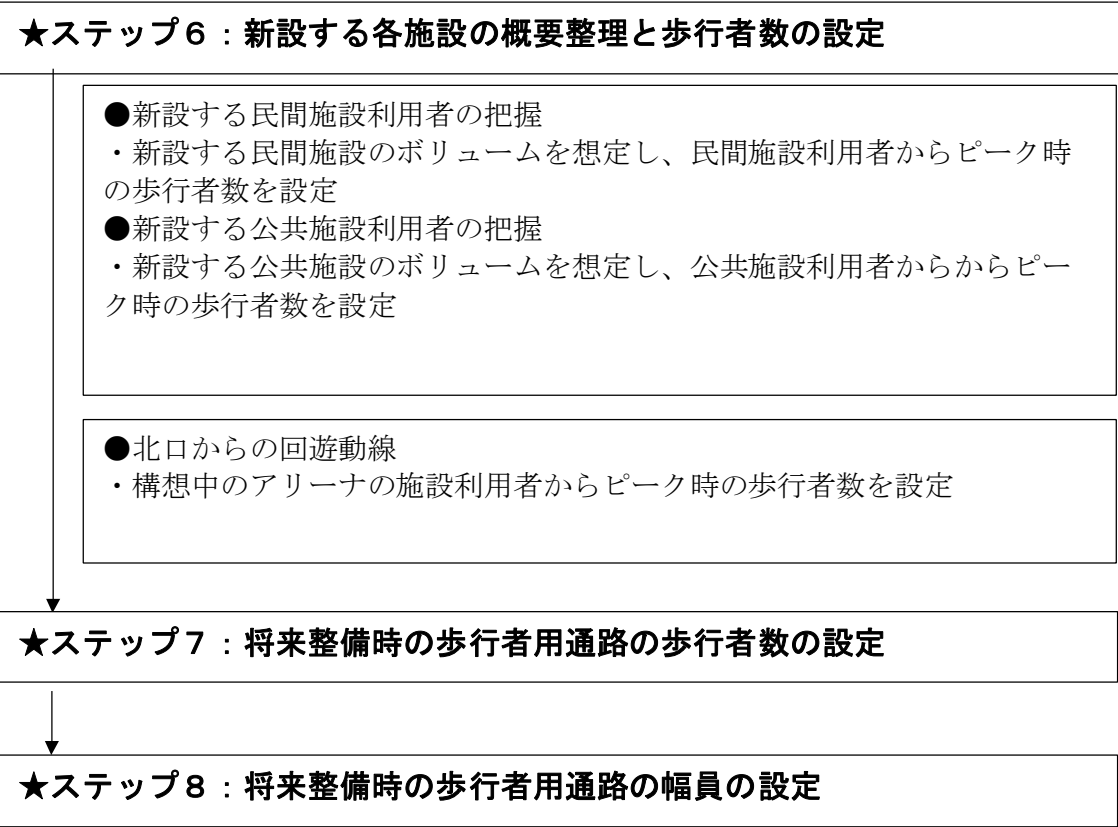
概算費用：5,910百万円

維持管理費：15百万円/回・5年

● 将来整備時の歩行者用通路の規模検討

- ・将来整備時の歩行者用通路の幅員検討にあたり、新設する図書館や民間施設、公共施設、そして既存のグランシップ、北口アリーナの利用者数を想定し、将来整備時の歩行者用通路の歩行者数と幅員を検討する。

■ 検討フロー



● 将来整備時の歩行者用通路の歩行者数の設定

- ・図書館と駅を結ぶ歩行者用通路を起点に東側に向かう歩行者用通路と西側に向かう歩行者用通路に分けて、それぞれ歩行者数を設定する。

■ 将来整備時の歩行者用通路の歩行者数（既存施設＋新施設＋イベント（休日））

	施設名	ピーク時の発生集中交通量（歩行者） （人 T. E/h）	地上部利用者のピーク時発生集中交通量（歩行者） （人 T. E/h）	備考
既存施設	東静岡駅から南口	294	147	交通量調査発生集中（双方向）
新施設	図書館	688	344	施設からの発生集中（双方向）※1
	民間施設	3,256	1,628	施設からの発生集中（双方向）※2
	公共施設	898	449	施設からの発生集中（双方向）※3
イベント	グランシップ	8,000	4,000	グランシップ退出者 4000 人施設からの発生（片方向）※4
	北口アリーナ	2,800	1,400	施設からの発生集中（双方向）収容人数 7000 人×2 の 1/5 が回遊 ※5
合計		15,936	7,968	

※1 年間開業日数は、グランシップと同じ 300 日と設定し、
年間利用者数（人）÷年間開業日数（日）×利用者の行帰りで倍 1,000,000÷300×2
＝6,666.6≒6,667（人 T. E/日）
1 日当たりの来退出者数×ピーク率＝6,667×10.3÷100＝686.7≒688

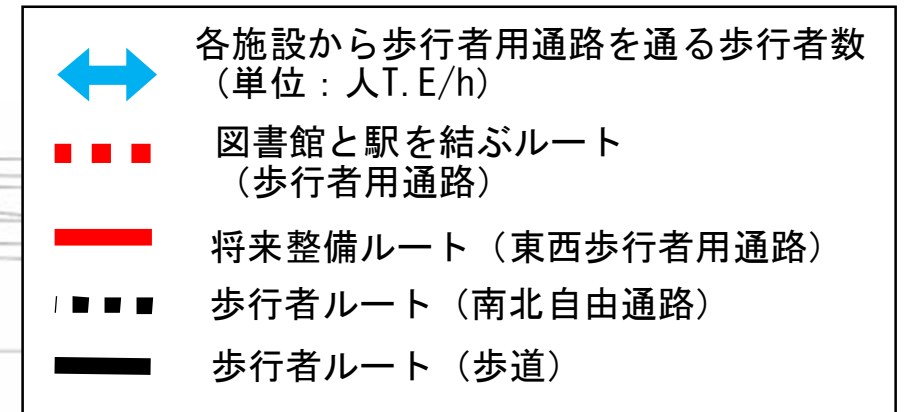
※2 発生集中交通量×ピーク率＝31,600×10.3÷100＝3254.8≒3,256

※3 発生集中交通量×ピーク率＝8,700×10.3÷100＝896.1≒898

※4 グランシップはイベント終了時を想定しているため、グランシップからの発生のみ対象

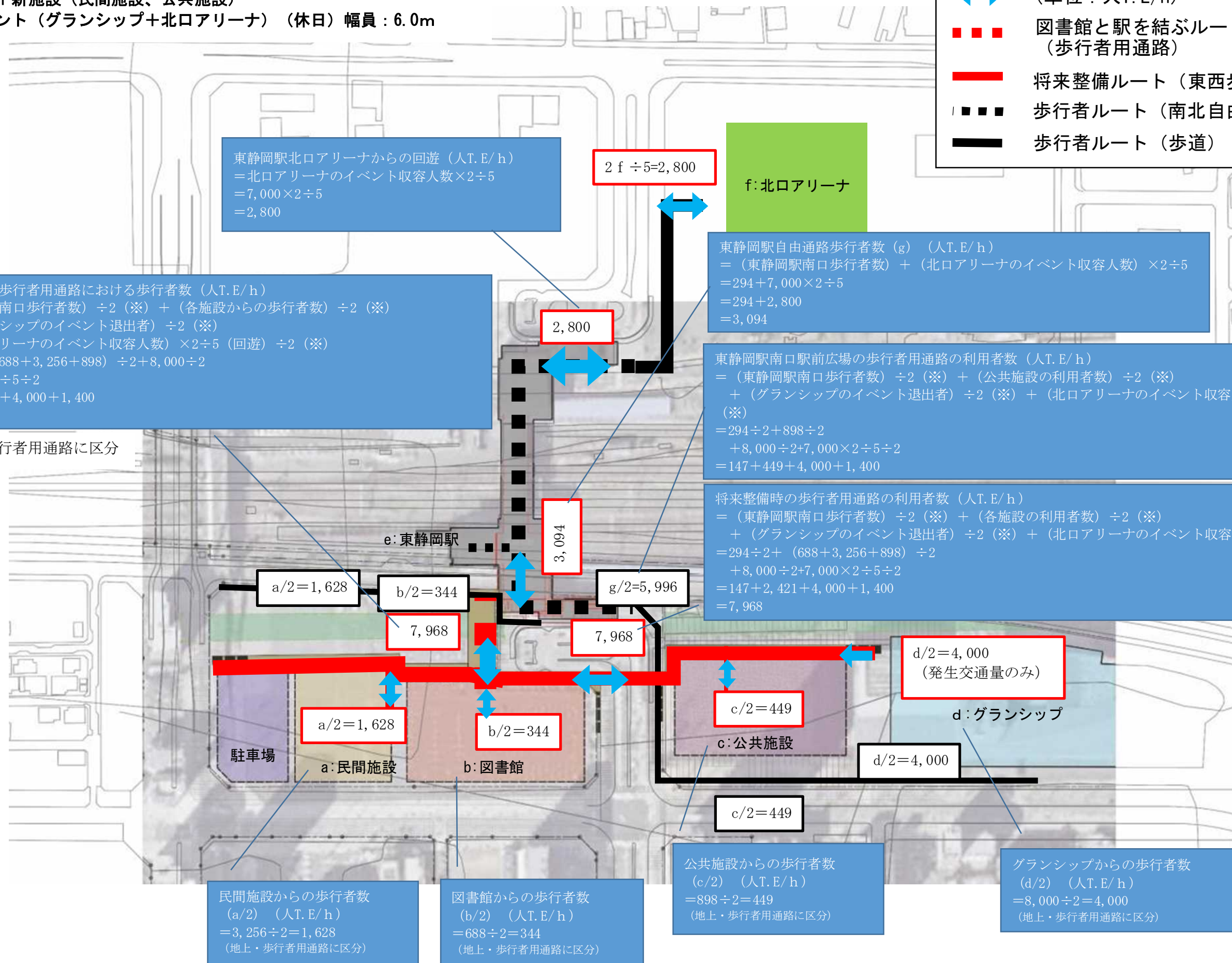
※5 施設の収容人数×回遊＝7000×2÷5÷2＝2,800

■ 将来整備時の歩行者用通路における歩行者数
 図書館+新施設（民間施設、公共施設）
 +イベント（グランシップ+北口アリーナ）（休日）幅員：6.0m



将来整備時の歩行者用通路における歩行者数（人T.E/h）
 =（東静岡駅南口歩行者数）÷2（※）+（各施設からの歩行者数）÷2（※）
 +（グランシップのイベント退出者）÷2（※）
 +（北口アリーナのイベント収容人数）×2÷5（回遊）÷2（※）
 =294÷2+（688+3,256+898）÷2+8,000÷2
 +7,000×2÷5÷2
 =147+2,421+4,000+1,400
 =7,968

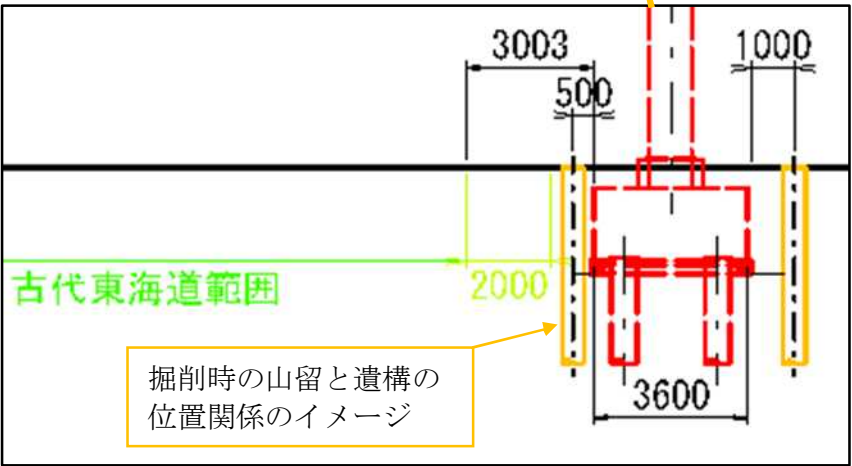
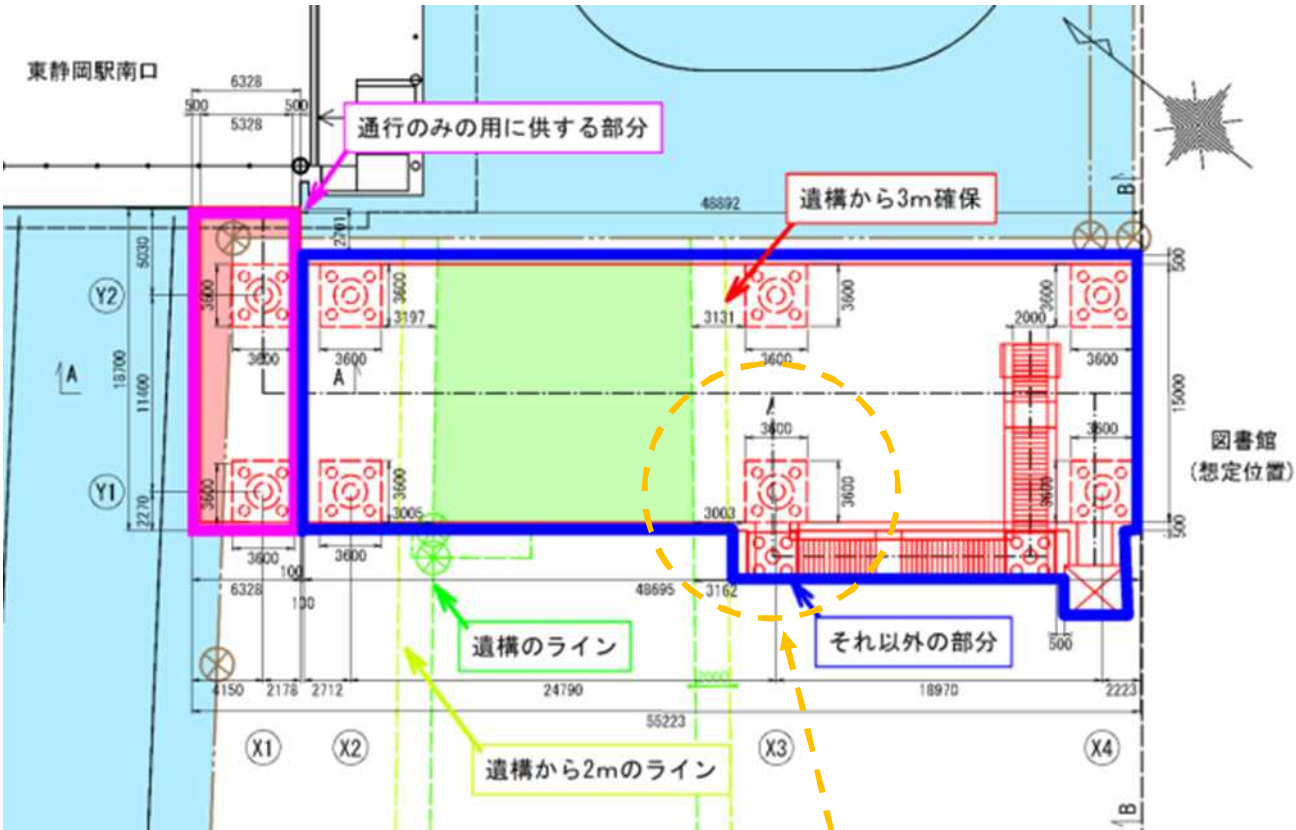
※地上・歩行者用通路に区分



第3章 図書館整備時の構造検討及び概算事業費の算出

1. 図書館整備時の構造検討

- **デッキ構造の考え方**
 - ・本デッキは、関係機関協議の結果、**建築物**として設計を行う。
 - ・建築物として取り扱うにあたり、現計画のデッキを一つの構造物として設計した場合、「静岡県行政連絡会議」における合意事項にそぐわない為、既存駅舎の増築扱いとなる。（右資料参照）
 - ・増築扱いとなる場合、既存駅舎への既存遡及等の対応が懸念されることから、「**通行のみの用に供する部分**」と「**それ以外の部分**」に分けた構造とする。
- **本設計での構造**
 - ・「通行のみの用に供する部分」と「それ以外の部分」で構造を分けて設計検討を実施。
 - ・古代東海道の遺構と基礎の離隔を3m確保。（掘削など開発事象を行わない範囲は遺構範囲から2m）
 - ・橋脚基礎が北側道路用地を侵さない様に考慮。
 - ・通路部有効幅員15m確保。
 - ・次頁に設計図を示す。



○別棟の取扱い

次のように通行の用のみに供する部分（以下「接続部分」という。）で接続部分以外の建築物（以下「本体部分」という。）が接続されている場合は、別棟として取り扱うこととする。

- 1 開放性を有する渡り廊下で接続する場合（開放性の判断は、床面積の算定における吹きさらし廊下の取扱いに準じる。）
 - ①本体部分は、防火・避難上の建築物とみなされる関係にないこと。
 - ②接続部分は、本体部分とエキスパンションジョイントその他の相互に応力を伝えない構造方法で接していること。
 - ③接続部分の主要構造部は、不燃材料で造られていること。
 - ④接続部分は、二階以下とする。
 - ⑤本体部分の延焼のおそれのある部分は、接続部分には関係なく、本体部分相互の外壁間の中心線から生じるものとする。

- 2 本体部分から底を張り出し接続する場合
 - ①本体部分は、防火・避難上の建築物とみなされる関係にないこと。
 - ②底は不燃材料で造られていること。
 - ③底相互に接する部分がないこと。※1
 - ④本体部分の延焼のおそれのある部分は、接続部分には関係なく、本体部分相互の外壁間の中心線から生じるものとする。

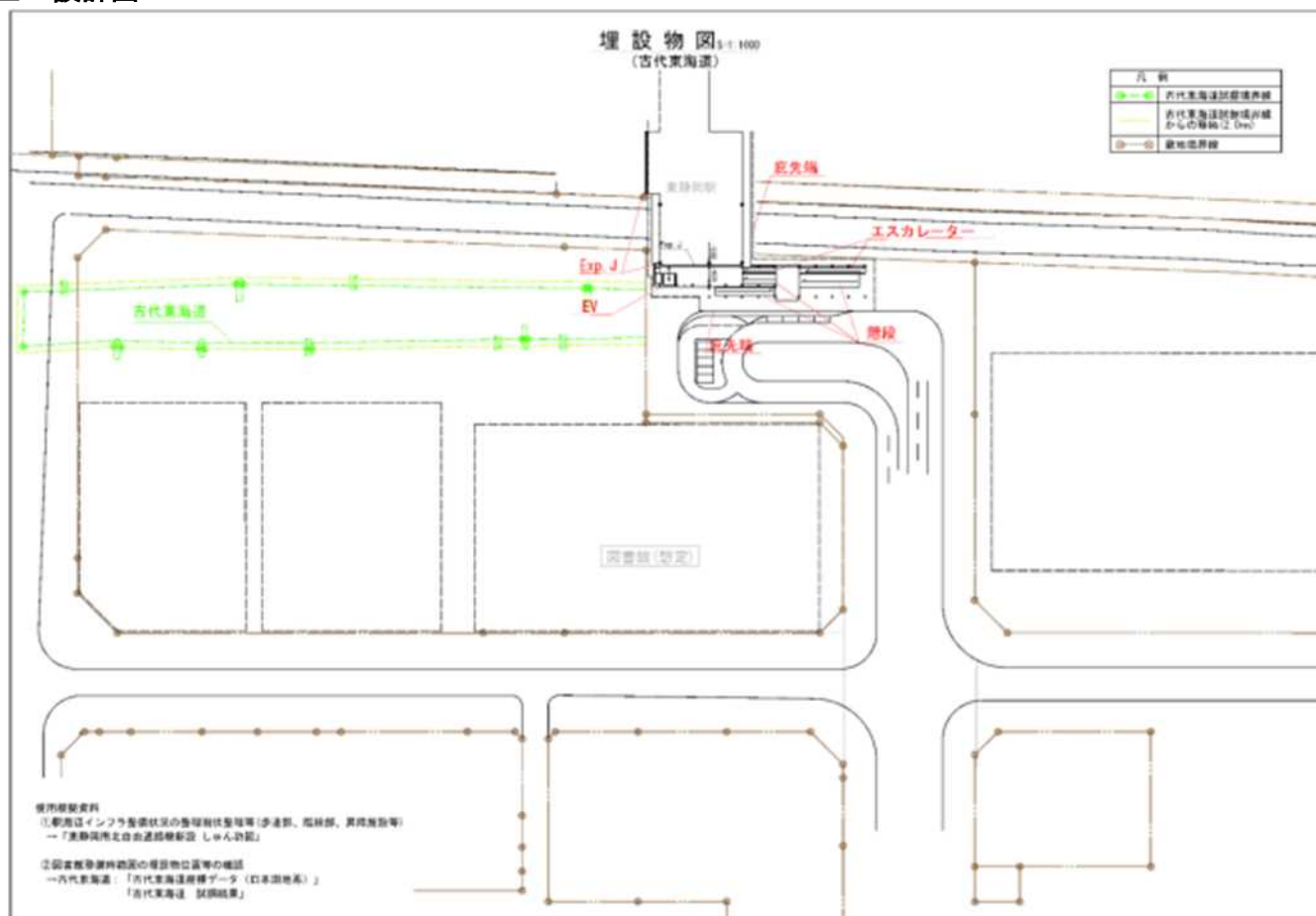
【平成 19 年度 秋期 静岡県建築行政連絡会議 合意】

（以下、静岡県の取扱いとして補足する事項）

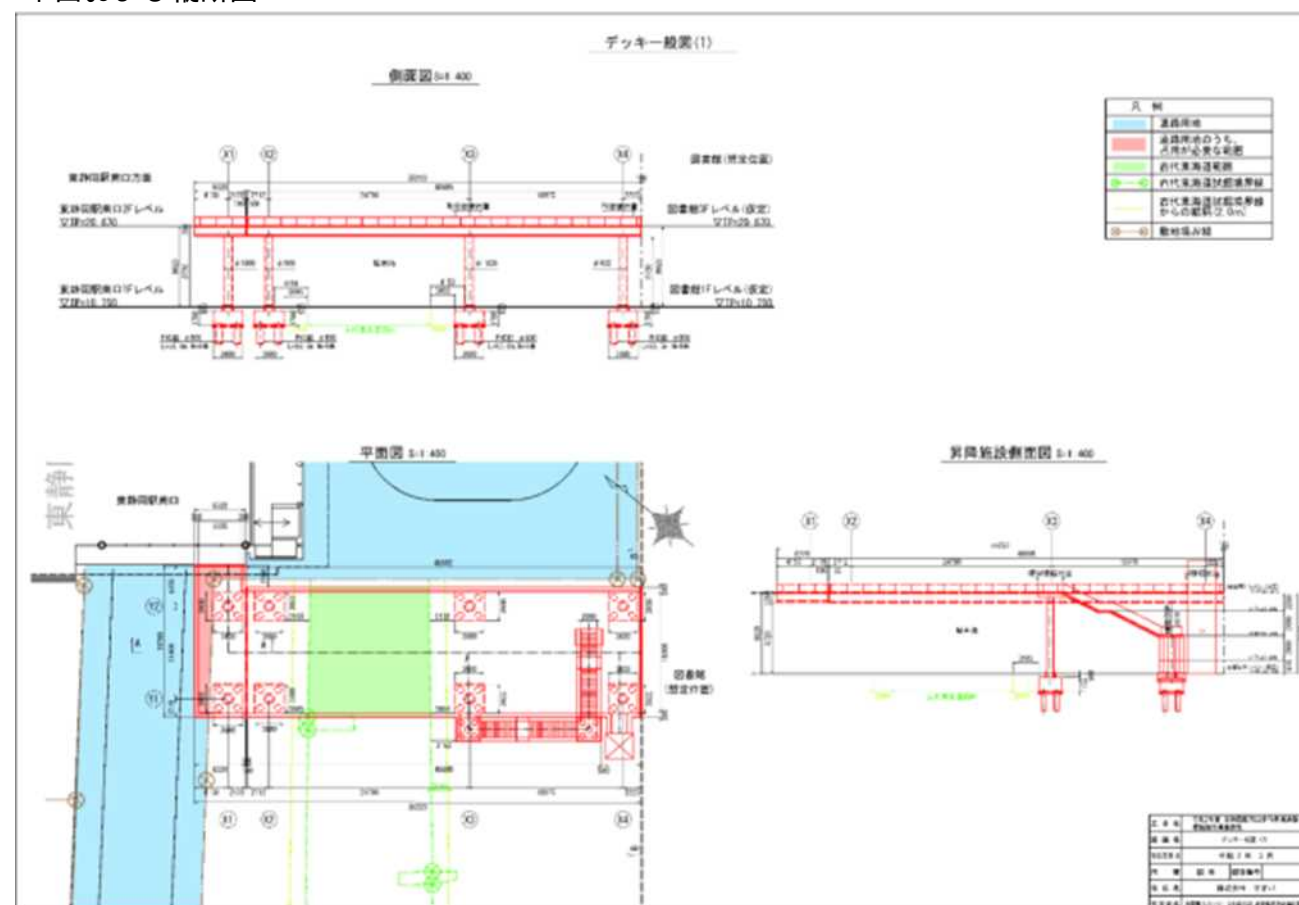
※1 底のほか、本体部分相互の外壁が近接している場合は、外壁相互に接する部分がないこと。（平成 25 年 11 月追記）

資料：静岡県 HP 静岡県の取扱い（静岡県が特定行政庁として所管する建築物等について）

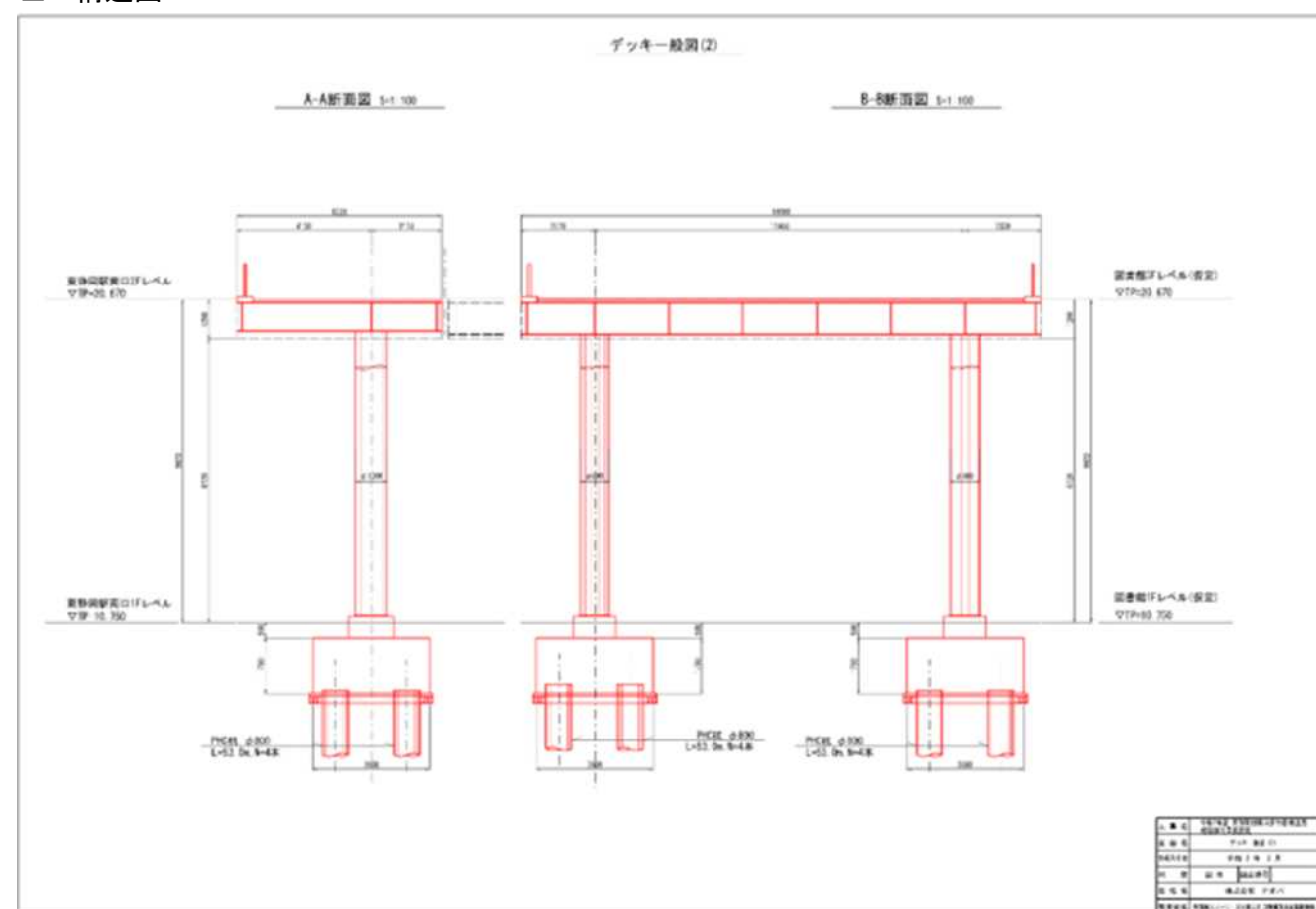
■ 設計図



■ 平面および縦断図



■ 構造図



2. 図書館整備時の概算事業費の算出

- ・デッキ構造および意匠を整備するにあたっての概算費用を算出

■東静岡駅南口 南北ペDESTリアンデッキ 概算工事費

(単位：千円)

工 種		規 格	数 量	単 位	単 価		金 額	備 考	
ペDESTリアンデッキ	通路部	有効幅員15m	902.4	m ²	800		721,880	L=55.3	
	階段		70.0	m ²	300		21,000		
息匠	屋根	幅3.5m	533.2	m ²	350		186,603		
	屋根以外	植栽・ベンチ等	700.0	m ²	50		35,000		
	桁カバー	アルミパネル	1245.6	m ²	100		124,555	側面、底面に設置	
昇降施設	EV	20人乗り	1.0	基	100,000		100,000		
仮設	土留	鋼矢板	253.4	m ²	30		7,603		
直接工事費計							1,196,641		
諸経費							25.00 %	299,160	
工事価格							1,500,000	百万円単位切上	
消費税							10 %	150,000	
概算工事費（改計）							1,650,000	百万円単位切上	
維持管理費（点検費用）							6,000	百万円単位切上	

※維持管理費については、土木デッキの5年に1回の定期点検1回分を参考とした。

第4章 関係機関協議

1. 関係機関協議、2. 関係機関協議のまとめ

■ 協議結果を踏まえた図書館と駅自由通路を結ぶ歩行者央通路の整備方針

協議項目	協議先	歩行者用通路の取り扱い	対応方針
図書館と駅自由通路を結ぶ歩行者用通路の位置づけ	静岡市 建築指導課 指導係（特定行政庁）	・いずれのルート案でも橋と屋根すべて建築物	
	静岡市 土木管理課	・西側ルート：「建築物」 ・南側正面ルート：「道路」 の位置付けで動かざるを得ない。駅前広場を通す案は柱・基礎等の設置が避けられず、その柱・基礎等は道路占用の許可基準ではなく、道路構造物として道路構造令に則し整備すべきものとするため	
図書館と駅自由通路を結ぶ歩行者用通路の可否	静岡市 建築指導課 指導係（特定行政庁）	・法文上の「道路の交通の緩和に寄与する」この部分が根拠をもって、説明できなければ、認められない	・大規模マニュアル※の考え方を参考に、上空通路の必要性を説明する ・アーケード協議会のメンバーに市都市計画課、建築総務課（景観）を参加させるため、事前協議をすること
	静岡市 土木管理課	・占用許可の観点では、 不特定多数の利用と無余地性（この位置で計画せざるを得ない理由）の確認 がある	・西側ルートで代替可能
		・歩行者用通路の建築物の柱の道路占用はできない ・駅前広場を通す案は柱・基礎等の設置が避けられず、その柱・基礎等は道路占用の許可基準ではなく、道路構造物として道路構造令に則し整備すべき ・道路占用する場合は、立体道路制度を活用し、都市計画法上での位置付けをしつつ、 建築物として作る場合でも「道路（構造物）」としての道路橋の構造規定を満たした 、柱脚や基礎等を整備していると判断（以上、市の事例調査に基づく判断）	・西側ルート：「建築物」 ・南側正面ルート：立体道路制度を利用して「建築物」
	（静岡県） （道路保全課）	・道路占用の基準については、法令・施行令等で細かく規定が定まっているわけではないので、言えることとしては、 道路としての大原則である「自由使用」の妨げにならないか 、ひいては通行の妨げになるかどうかという判断基準となる ・「無余地性」という考え方があり、他に設置する場所がないので、やむを得ず道路部分に設置するという考え方がないといけない。現状の2案を見ると、正面案と比べ、側面案の方が、面積も小さく、市道内への柱の設置がないため、比較的容易である。2案を比較すれば、側面案で検討してくださいとなる	
別棟の取り扱い	静岡市 建築指導課 審査係（建築主事）	・防火・避難の観点から駅南北自由通路と渡り廊下（歩行者用通路）、図書館を一体的に考えるべき。これを各々分離して別棟として考える場合については、開放性のある渡り廊下という位置づけとなるため、屋内的用途（ベンチやたまり空間：床面積）が発生せず に通行の用に供する部分のみしか、別棟の扱いができない ・現在の計画では、開放性を有すると認められない。そもそも取り扱い自体が、学校の校舎と校舎をつなぐ渡り廊下を想定したものであり、一般的な渡り廊下のような形状で検討したほうがよい （吹きさらしの廊下：外気に有効に開放されている部分の高さが、1.1m以上であり、かつ、天井の高さの2分の1以上である廊下については、幅2mまでの部分を床面積に算入しない（建住第115号昭和61年4月30日）	・既存駅舎部分の“増築”扱いとならないよう遡及を回避することを想定 ・西側ルートで道路占用部分を別棟とするためには、通行の用に供する部分のみで接続が必要 ・開放性のある渡り廊下の床面積の考え方は、吹きさらしの廊下を参照
	警察	意見無し	
	消防	棟の判断は、建築主事の判断による。その他の計画については、意見なし	
	J R	現時点では意見なし	

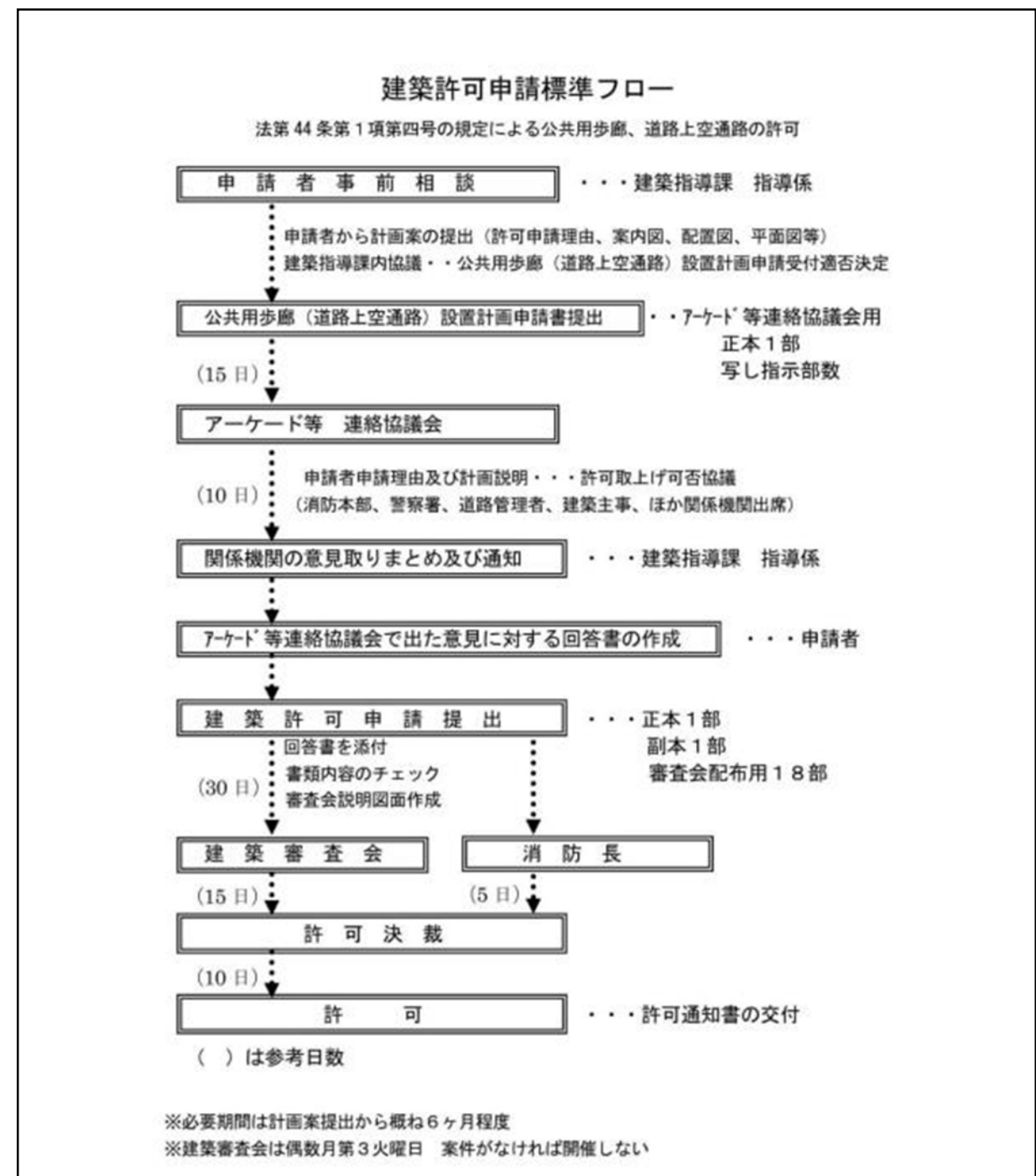


総括	・道路上空に設ける通路に係る建築基準法第44条1項4号の規定に基づく許可の運用について（技術的助言）において、 通行又は運搬以外の用途に供しないこと 、とされている ・図書館整備時には将来の施設整備計画が不透明であり、南側正面ルートで無余地性を説明する材料に乏しい。また、図書館の設計公募において、設計者の自由な提案のもと、図書館とデッキを一体的に整備する計画を求めるため、早々に敷地内に動線を引込み、設計者の提案自由度を上げた 西側ルート（側面案） を採用する ・図書館敷地と駅舎自由通路までの距離が短いため、 建築物で道路上空占用 とする ・ 大規模マニュアルの考え方を参考に必要幅員を算定 する。また、上空占用部の最大幅員については、今後の協議にもよるが、別棟の取扱い（吹きさらしの廊下の扱い）を参照し、計画する
----	--

※「大規模再開発地区関連交通計画マニュアル 改訂版」平成26年6月 国土交通省 都市・地域整備局 都市計画課 都市交通調査室

3. 図書館設計への反映

- ・ 建築基準法第44条第1項第四号の規定による公共用歩廊、道路上空通路の許可を申請する場合、静岡市は以下のような手順が必要となる。

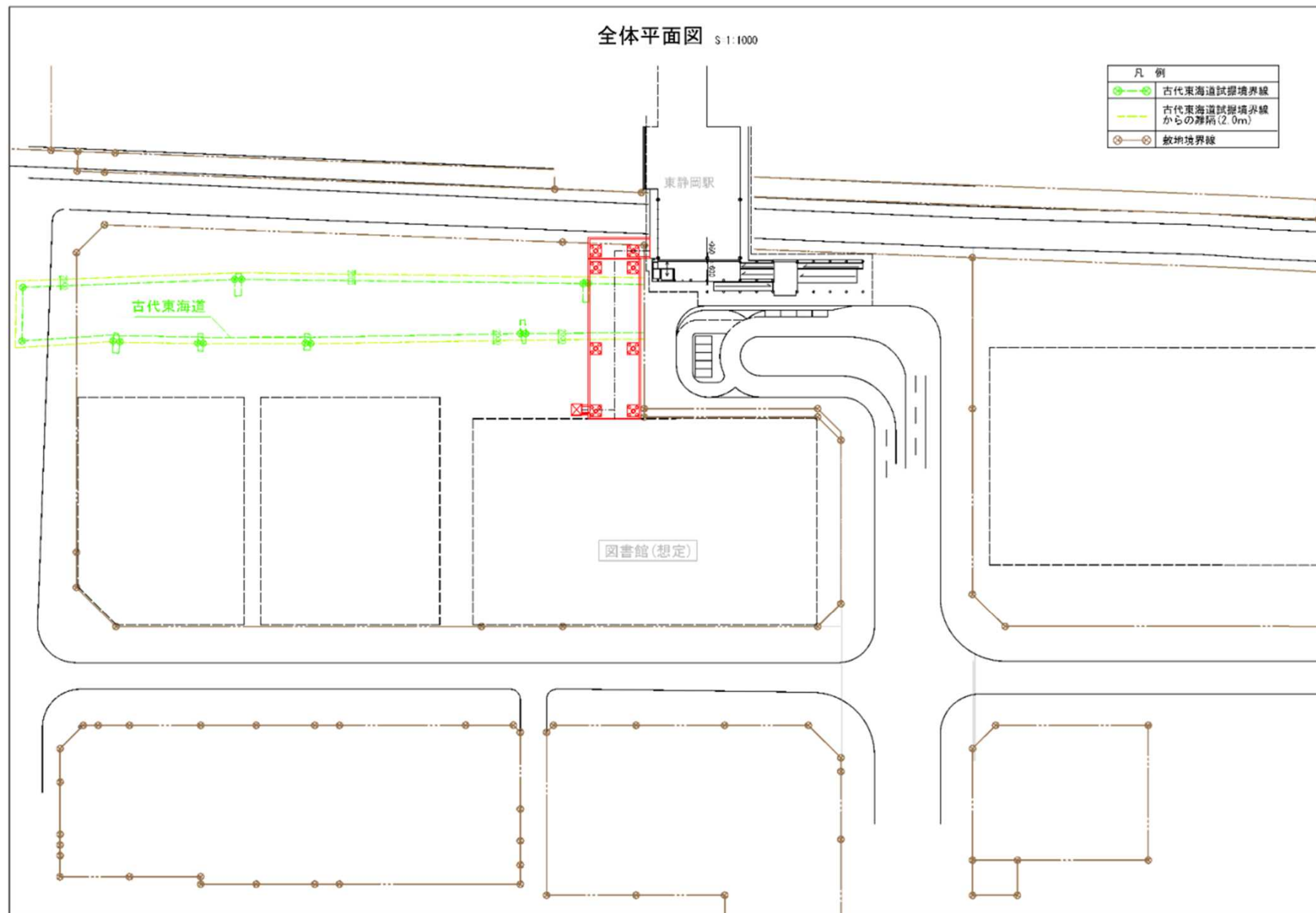


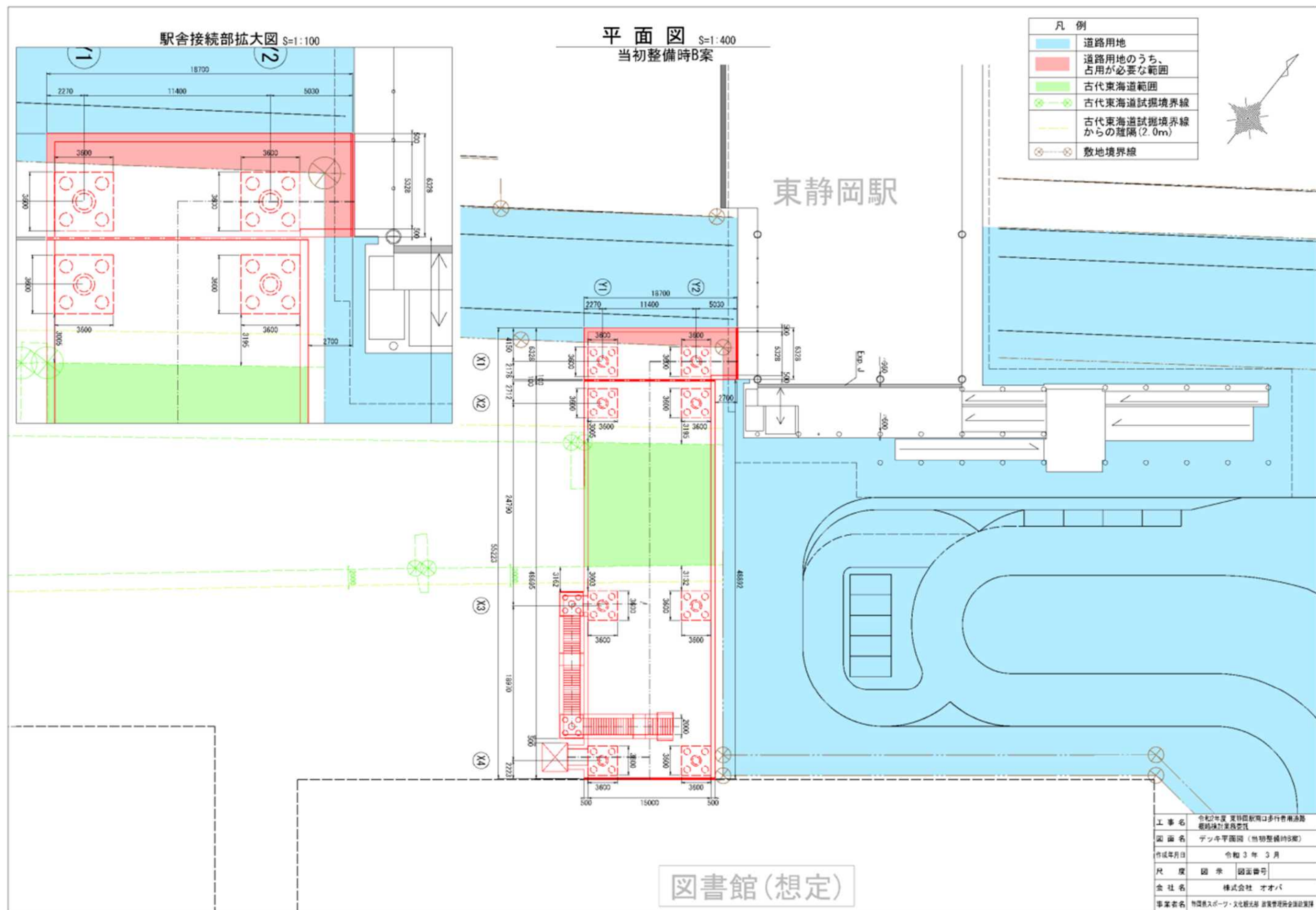
資料：静岡市HP 建築基準法第44条第1項ただし書による許可

- 図書館設計公募時に、図書館整備時の歩行者用通路及び将来整備の歩行者用通路に関して、必要となる記載内容（案）

項目	記載内容
図書館整備時の歩行者用通路の取り扱い	<ul style="list-style-type: none">・ 建築基準法第44条第1項第四号の規定による公共用歩廊、道路上空通路の許可に関する事項・ 別棟の取り扱いに関する事項・ 想定している歩行者用通路の利用者数・ 想定している幅員、構造、仕様・ 接続位置と接続方法・ 想定している機能（歩行者用通路上、地上部）・ 駐車場整備の考え方・ 富士山への眺望確保
文化財	<ul style="list-style-type: none">・ 試掘が必要な範囲を確認する事・ 試掘を行い文化財位置を確認する事・ 文化財から2mの範囲は掘削等の開発事象不可
埋設物	<ul style="list-style-type: none">・ 台帳等を確認し、地下埋設物（インフラ）の有無を確認をする事・ 地下埋設物が確認された場合、その管理者と適宜協議を行う事（撤去新設、移設、工事中の保護等を想定）

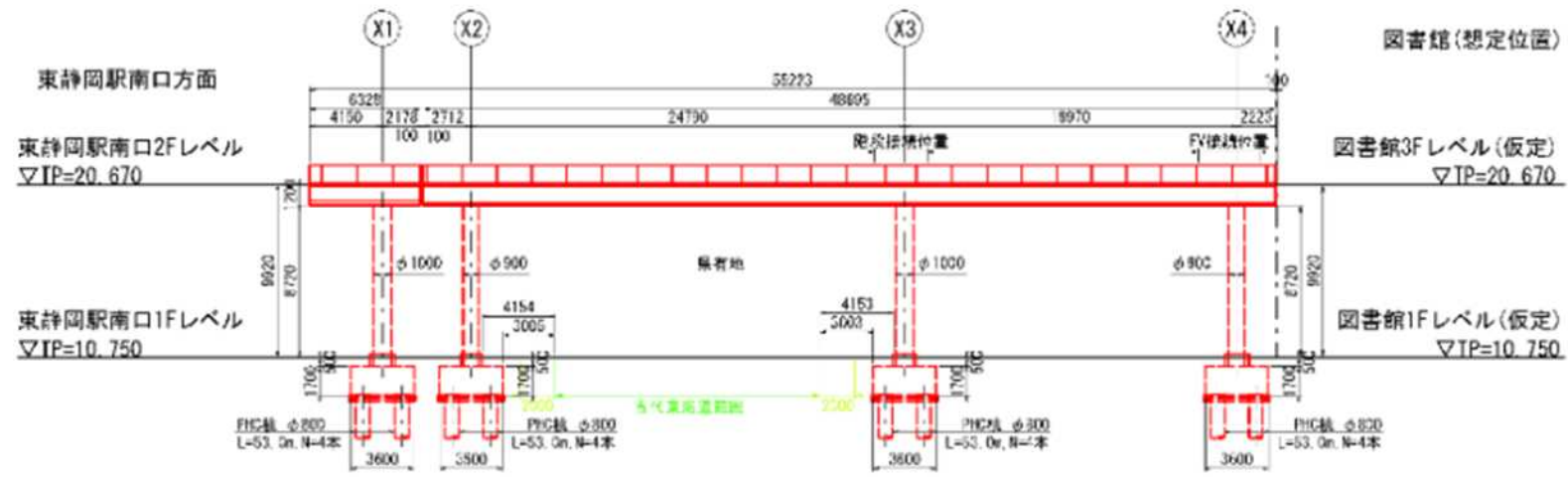
4. 申請可能な案の作成





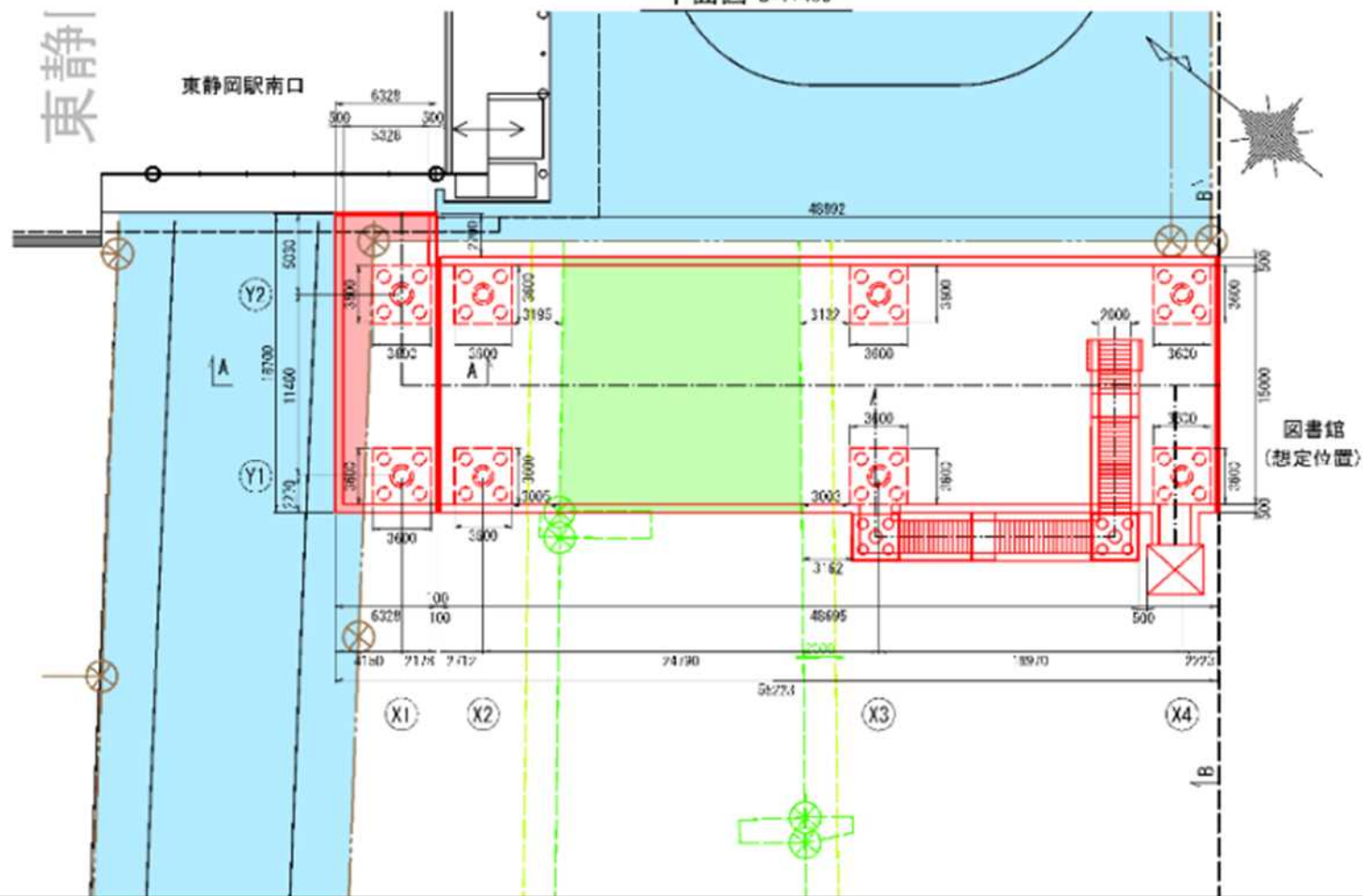
デッキ一般図(1)

側面図 S=1:400

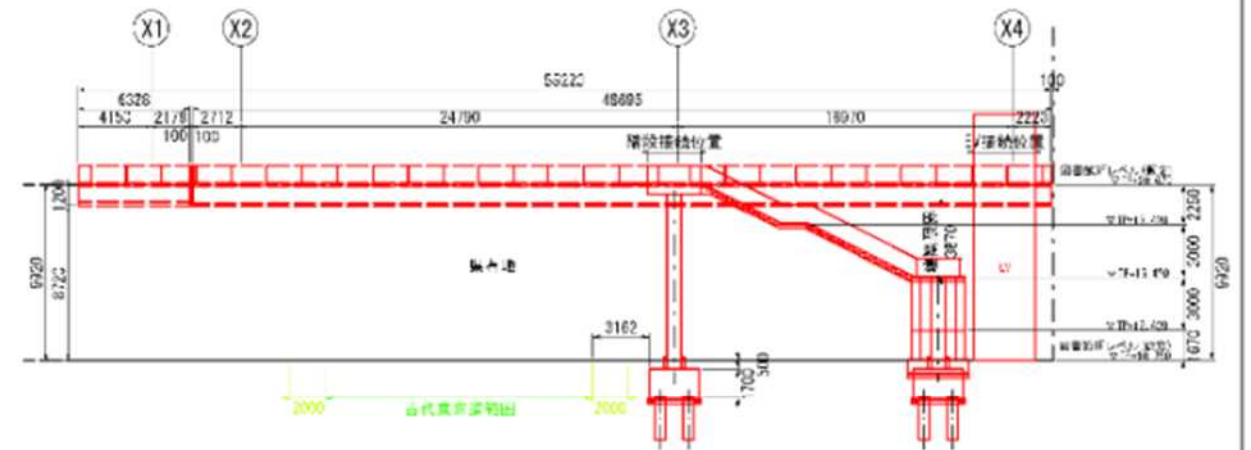


凡 例	
	道路用地
	道路用地のうち、 占用が必要な範囲
	古代東海道範囲
	古代東海道試掘境界線
	古代東海道試掘境界線 からの離隔(2.0m)
	敷地境界線

平面图 S=1:400



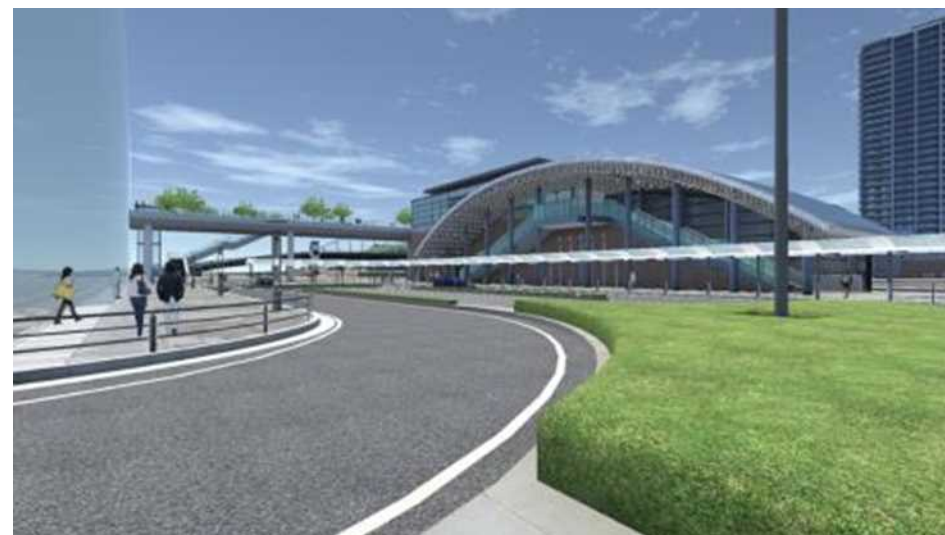
昇降施設側面図 S=1:400



工事名	令和2年度 富田町新築ふもろり倉庫造営 要綱別添付書作成		
図面名	デッキ-校則 (1)		
作成年月日	令和 3 年 3 月		
尺 図	図 示	図面番号	
会社名	株式会社 オオバ		
部署名称	町営施設スポーツ・文化課生活 富田町生活安全課設備		

第5章 イメージパース作成

■ 図書館整備時



■ 将来整備時

